

**令和5年度
片瀬・江の島
まちづくり協議会
活動報告集**



片瀬・江の島まちづくり協議会

（片瀬地区郷土づくり推進会議）

令和5年度委員編集

令和5年度片瀬・江の島まちづくり協議会活動報告集

目 次

1. 協議会全体の活動について	P.1
2. 各部会及び地域課題別検討ワーキングの活動について	P.7
3. まちづくり事業について	P.8
片瀬地区人材・情報バンクセンター事業	P.8
ボランティアセンター事業	P.11
まちかど相談事業	P.13
青少年健全育成事業	P.15
民俗文化財等継承事業	P.17
片瀬・江の島歴史文化継承事業	P.18
緑と花いっぱい推進活動事業	P.19
4. 地域課題の検討について	P.20
広報関連課題	P.20
参考資料	P.21
(1)片瀬・江の島まちづくり協議会 令和5年度アンケート結果	P.22
(2)令和5年度片瀬・江の島まちづくりタウンミーティング(地区集会)実施結果	P.49
(3)令和5年度片瀬・江の島まちづくり協議会委員名簿	P.61
(4)藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱	P.62
(5)片瀬地区郷土づくり推進会議運営要領	P.66

はじめに

片瀬・江の島まちづくり協議会（片瀬地区郷土づくり推進会議の通称）は、藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱に基づき市が設置する会議体として新たに位置づけられた組織で、その役割には、地域の意見を集約しながら地域の課題を把握し課題解決に向けた方向性を検討することや、その検討結果により市への提案・提言等や地域の特性を活かした事業の企画・実施をすることにあります。

本書は、まちづくりの根幹となる市民参加制度「郷土づくり推進会議」がスタートしてから10年目となる令和5年度（2023年4月～2024年3月）について、片瀬地区のまちづくりを進めてきた片瀬・江の島まちづくり協議会の活動をまとめたものです。

1. 協議会全体の活動について

片瀬・江の島まちづくり協議会（以下、「協議会」という。）は、片瀬地区自治町内会連絡協議会等の片瀬地区で活動する地域団体等から選出された委員14人と公募委員7人（令和3年度末公募委員選考）の合計21人の委員により構成し、令和4年度から2年間の任期で市長から委嘱を受けて活動しています。

協議会は、片瀬地区郷土づくり推進会議運営要領に基づき、円滑な運営を図るため、委員全員が出席する「全体会」、役員が出席する「役員会」、まちづくり事業や地域課題の検討を具体的に検討する「部会」、部会の担当分野に該当しない地域課題について解決に向けた方策の検討や取扱いの方向性を検討する「課題別検討ワーキンググループ（以下、「WG」という。）」の各種会議を必要に応じて開催してきました。

その中で、運営の柱となる役員について、議長（片瀬・江の島まちづくり協議会では「会長」という。）は、全体を代表することから片瀬地区自治町内会連絡協議会からの選出委員を充て、副議長（片瀬・江の島まちづくり協議会では「副会長」という。）の役に4つの部会から各部会長が就任しています。これは、まちづくり事業の推進を担っている部会のリーダーが役員となることで、協議会全体の運営と事業活動との連携がスムーズにとれ、かつ、各事業や地域での活動実践の視点から本音で議論・検討を進められる体制として、これまでの経験を踏まえ採用しているものです。このような形で、役員会において議題についての検討を集中的に行い、全体会へ議論のたたき台として提案していくことで、より充実した活動につながってきたものです。

令和5年度に開催した全体会等の会議の開催状況や議題は、次頁に掲載しました。

1. 協議会全体の活動について

■全体会（12回、延べ290人出席）

回数	日時	出席人数				主な議題等
		委員	傍聴	事務局	合計	
1	4月20日(木) 16:20～17:40	15	0	7	22	・令和5年度事業について
2	5月26日(金) 15:30～17:10	16	0	4	20	・令和5年度の活動について “若い人が参加したくなる地域づくり”
3	6月15日(木) 18:30～20:30	17	0	7	24	・令和5年度の活動について “若い人が参加したくなる地域づくり”
4	7月21日(金) 15:30～17:40	15	0	6	21	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換 ・まちづくりアンケートについて ・ふれあいまつりについて
5	8月24日(木) 15:30～17:20	16	0	7	23	・まちづくりアンケートについて
6	9月22日(金) 18:30～20:00	16	0	4	20	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換 ・“みんなが参加したくなるまちづくり”アンケートについて
7	10月19日(木) 15:30～17:15	19	0	7	26	・令和5年度地区集会の開催について ・“みんなが参加したくなるまちづくり”アンケート中間報告
8	11月16日(木) 15:30～17:30	12	0	7	19	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換 ・“みんなが参加したくなるまちづくり”アンケート集計結果 ・令和5年度地区集会の方向性について
9	12月21日(木) 18:30～20:50	15	0	7	22	・片瀬山市民の家再整備に関する報告 ・部会・事業等の総括について ・令和5年度地区集会について
10	1月25日(木) 15:30～17:25	18	0	6	24	・令和5年度地区集会について
11	2月22日(木) 15:30～17:45	14	0	7	21	・令和5年度地区集会について（最終確認）
12	3月19日(火) 18:30～20:30	17	0	7	24	・まちづくり通信第45号について ・次年度の取組について

1. 協議会全体の活動について

■役員会（12回、延べ86人出席）

回数	日時	出席人数			主な議題等
		役員	事務局	合計	
1	4月6日(木) 15:30～17:00	5	3	8	・市長との意見交換会について ・令和5年度事業計画、検討課題について
2	5月12日(金) 15:30～17:00	3	2	5	・令和5年度の活動について 「若い人が参加したくなる地域づくり」
3	6月1日(木) 15:30～17:00	5	3	8	・令和5年度の活動について 「若い人が参加したくなる地域づくり」
4	7月7日(金) 15:30～17:00	4	3	7	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換について ・令和5年度の活動について 「若い人が参加したくなる地域づくり」「ふれあいまつり」
5	8月7日(月) 15:30～17:00	5	3	8	・アンケートについて
6	9月13日(水) 15:30～17:00	5	3	8	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換について ・令和6年度郷土づくり推進会議委員改選について ・“みんなが参加したくなるまちづくり”アンケートについて
7	10月6日(金) 15:30～17:00	5	3	8	・令和5年度地区集会について ・“みんなが参加したくなるまちづくり”アンケートについて ・委員公募要領等について
8	11月2日(木) 15:30～17:00	3	3	6	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換について ・令和5年度地区集会について ・地区集会の方向性について
9	12月8日(金) 15:30～17:00	4	3	7	・部会、事業の総括について ・令和5年度地区集会について
10	1月15日(月) 15:30～17:00	4	3	7	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換について ・令和5年度地区集会について ・委員の改選について
11	2月8日(木) 15:30～17:00	5	3	8	・令和5年度地区集会について ・まちづくり通信第45号について
12	3月7日(木) 15:30～17:00	4	3	7	・藤沢市都市マスタープラン改定に伴う意見交換について ・令和5年度地区集会について ・まちづくり通信第45号について

1. 協議会全体の活動について

■地区集会

地区集会については、片瀬・江の島まちづくり協議会の活動を周知し、地域の方から意見をいただく機会とすることはもちろんのこと、片瀬地区の地域の課題を集約し、把握できる貴重な場と捉えています。

また、地区集会の開催に向け、過去の実施例から地域課題や意見を出しやすくする工夫についての検討を重ねてきました。ひとつには、関心のある個別のテーマを取り上げ、その分野の活動団体、市担当課職員や関係者にも参加をいただきながら、最新の情報や実情を踏まえ、議論が深められるようなプログラムとすることや、これまで実施してきたワークショップのような少人数制の分科会的な要素についても、発言・意見しやすいスタイルとして効果があるものと評価してきました。

令和5年度の地区集会は「みんなが参加したくなるまちづくり」をテーマに、令和5年10月に実施した「まちづくりアンケート」の集計結果を踏まえ、片瀬地区にお住いの若い世代から高齢者まで様々な世代が「より暮らしやすいまち」となるためにはどうしたら良いのかグルーptークを行い、意見集約を行いました。

この地区集会でいただいた意見や提案、新たな課題については、しっかりと受けとめ、まちづくり通信等でその内容をお知らせするとともに、協議会としても意見等の掘り下げや課題解決に向けた継続的な活動へと繋いでいきます。今後も、この地区集会等の機会や様々なメディアを利用して、地域住民からの地域課題の集約と意見のキャッチボールが大切であると認識しています。

地区集会（1回）

日 時	令和6年3月2日（土）10：30～12：30
場 所	市民センターホール、オンライン（併催）
テーマ	片瀬地区 みんなで話そう タウンミーティング ～「みんなが参加したくなるまちづくり」を目指して～
参加者	47人（会場30人、オンライン3人、委員14人）

第一部 まちづくり協議会令和4、5年度2年間の活動報告

- (1) まちづくり協議会全体の活動報告
- (2) 各部会の活動報告

第二部 (1) アンケート結果報告

- (2) グループトーク（5グループに分かれてグループトーク）

グループトークの意見等地区集会の詳細は、49ページからの資料をご覧ください。

1. 協議会全体の活動について

■令和5年度アンケート

片瀬・江の島まちづくり協議会は『みんなが参加したくなるまちづくり』を目指して活動してきました。『みんなが参加したくなるまちづくり』とはどういう事なのか、片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区が「より暮らしやすいまち」となるためのヒントをいただきたく、2023年10月にアンケートを実施しました。

実施方法

- (1) 対象者 片瀬地区在住の住民
- (2) 周知方法 ①10月10日号まちづくり通信44号発行
②ちらし(A5)を配布
- (3) 回答方法 ①インターネットで回答(市電子申請を利用)
②アンケート用紙での回答(市民センター窓口で配布、回収)
- (4) 回答期間 2023年10月5日(木)から11月10日(金)まで
- (5) 回答数 151件(うち電子回答97件)

アンケート内容、回答は22ページからの結果報告資料をご覧ください。

今回の地区集会やアンケートを通して、片瀬地区は非常に暮らしやすい、良い地域であり、人と人とのつながりがあるまち、など片瀬地区への思いを感じることができました。この思いを未来へつなぎ、地域のつながりをより強くできるよう、さらにたくさんの方にまちづくりに参加していただける片瀬地区を目指していきます。

皆様からいただいたご意見は、これからの片瀬地区をより良くするためにまちづくり協議会で地域課題としていくのはもちろん、自治・町内会をはじめとする片瀬地区内の地域団体と共有し、それぞれの活動の参考としていただきたいと考えています。

■市長との意見交換会(1回)

意見交換会は、市長はじめ副市長や関係部課等の市職員と協議会の委員が地域づくりにおける課題について意見交換を行い、当協議会の取組や地域の意見・課題等の実情を伝えることができる大切な場と考えています。

令和5年度については、次のとおり意見交換会を行いました。

日 時	令和5年4月20日(木) 15:30~16:30
場 所	片瀬市民センターホール
出席者	まちづくり協議会委員 15人 市側 21人 (鈴木市長、和田副市長、宮治副市長、企画部長、防災安全部長、福祉部長、地域共生社会推進室長、市民自治部長、市社会福祉協議会担当職員、他職員 12人)

1. 協議会全体の活動について

■郷土づくり推進会議地区交流会（1回）

市内13地区での活動の情報共有を図り地域住民と市との協働を深めることを目的として郷土づくり推進会議代表者と理事者との地区交流会が開催されました。

日 時	令和5年11月10日（金）10:00～12:00
場 所	藤沢商工会館 ミナパーク 302・303 会議室
出席者	市内13地区郷土づくり推進会議代表者各地区2人 市側理事者3人（鈴木市長・和田副市長・宮治副市長）
内 容	「若い世代や新しい層を取り込む特色ある地域活動について」、「地域の活性化・自治会加入率について」、「郷土づくり推進会議のあり方について」をテーマに、活発な意見交換を行い、地域の様々な課題を共有するとともに、地域づくりの推進にあたっての基本的な考えを共有しました。

２．各部会及び地域課題別検討ワーキングの活動について

２．各部会及び地域課題別検討ワーキングの活動について

令和５年度は、まちづくり事業６事業を担う４部会により、各事業の推進や関連する地域課題についての検討等活動を行いました。

また、部会の活動分野に該当しない、もしくはひとつの部会だけでは対応が難しい地域課題については、前年度に続き１つの課題別検討ワーキング・グループにより、取扱いの方向性や対策等についてのワーキングを行いました。

まちづくり事業の推進等の活動状況については「３．まちづくり事業について」に、地域課題の検討状況については「４．地域課題の検討について」に、それぞれまとめて記載し、ここでは各部会及び地域課題別検討ワーキングの会議の開催状況について記します。

(1) 人材・情報バンクセンター運営委員会

＜担当事業＞ 片瀬地区人材・情報バンクセンター事業

＜会議開催状況＞ 会議 12 回 延べ 97 人出席

(2) ボランティアセンター運営委員会

＜担当事業＞ ボランティアセンター事業、まちかど相談事業

＜会議開催状況＞ 会議 6 回 延べ 56 人出席

(3) 青少年健全育成部会

＜担当事業＞ 青少年健全育成事業

＜会議開催状況＞ 会議 6 回 延べ 29 人出席

(4) 郷土文化推進部会

＜担当事業＞ 民俗文化財等継承事業、片瀬・江の島歴史文化継承事業、郷土魅力継承等課題

＜会議開催状況＞ 会議 10 回 延べ 102 人出席

(5) 広報事業ワーキング・グループ

＜担当地域課題＞ 片瀬地区の情報発信について

＜会議開催状況＞ 会議 9 回 延べ 30 人出席

3. まちづくり事業について

<<事業名>> 片瀬地区人材・情報バンクセンター事業

<担当部会> 人材・情報バンクセンター運営委員会

<事業の目的>

地域情報の発信や、ボランティア活動のニーズに応え、地域活動の活性化に取り組む「人材・情報バンクセンター」に専属のコーディネーターを配置し、地域でボランティアをしたい・できるという団体・人と、ボランティアを求めている団体・人を「つなぐ」ことや、地域ボランティア活動の情報発信、イベント等の実施による人材発掘など、コーディネーターを核とした地域まちづくり活動の推進を図る。



<事業の概要>

地域で行われている様々な地域活動情報、人や団体の 情報などを蓄える「人材・情報バンクセンター（通称：JJBC）」（平成24年3月開設）に、専属のコーディネーター3人を配置し、地域でボランティア活動をしたい・できる団体や人と、ボランティアを求めている団体や人を「つなぐ」ことや、地域の情報発信、新たな人材発掘など、地域の人材や情報の拠点として地域活動を推進する。

<事業の実施状況>

①地域の情報収集（関係づくり）、登録者・情報の蓄積（バンク）

地域の様々な団体や外部との関係づくりに積極的に取り組むため、各地域団体の会議に出席して聞き取り調査を行いました。また、継続的な取り組みとして、地域の情報収集・登録団体の増加（情報の蓄積）に向けた活動を行いました。

【令和6年3月末時点の登録件数】118件

・「できます」登録（ボランティアできるという団体・個人の登録）

団体：19件 福祉関係団体による高齢者の支援、障がい者の支援など

個人：51件 高齢者の生活支援、話し相手、庭木の手入れ、楽器演奏など

・「おねがい」登録（ボランティアしてほしいという団体・個人の登録）

団体：48件 福祉施設、地域活動団体からのボランティア募集

個人：0件 個人からのボランティア依頼に対するコーディネートは現段階では対象としていない(ボランティア団体を紹介するのみ)

②相談対応、コーディネート

毎週火・金曜日（午前10時～午後3時）に開所し、地域活動に関する相談への対応、人と団体と情報とを結びつける業務（コーディネート）を進めました。

3. まちづくり事業について

・片瀬地区ポータルサイトの更新及び地域イベント情報掲示板による情報発信

年度	H29	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	合計（件数）
情報発信件数	116	119	80	15	163	311	115	919

※地域団体の活動を取材し、地域全体の情報や、各種イベントのチラシを片瀬市民センターしおさいコーナーにて掲示（随時更新）



片瀬地区ポータルサイト



地域イベント情報掲示板

〈事業の評価・予算〉

目標値 150 件 → 実績値 118 件（令和6年3月末時点） ※活動指標 登録件数

※令和5年度、お願い団体、できます団体及び個人の登録状況を確認した結果、活動の停滞や登録者の高齢化などの理由から、登録件数が減少した。

予算額 1,619,000 円（委託料）→ 執行額 903,557 円（執行率 55.8%）

※コーディネーターが年度途中で退任したことによる

〈人材・情報バンクセンターの現状と課題〉

- ①高齢化によりできます個人の活動が継続できないことが判明した。また、おねがい団体からの依頼に偏りが生じている。
- ②新型コロナウイルス感染拡大を契機に、「おねがい団体」「できます団体・個人」いずれもボランティア活動に対する意識に変化が生じている。
- ③「チーム FUJISAWA2020」が普及し、JJBBC を介さず非対面でボランティアのマッチングが行われるようになったことで、これまで対面を中心としていた活動のニーズと合致していない。

〈今後の方針〉

新型コロナウイルス感染拡大やチーム FUJISAWA2020 の普及により、社会情勢が大きく変化しており、今後も加速することが予想される。また、今年度、まちづくり協議会が実施したアンケートの結果から、イベント運営などのボランティアのニーズと比較し、継続性のある地域活動のニーズが低い傾向となったことを受け、急速に変化するニーズに対応するため、情報発信の方法など、検討し地域課題の解決を図る必要がある。

＜＜事業名＞＞ ボランティアセンター事業

＜担当部会＞ ボランティアセンター運営委員会

＜事業の目的＞

地域福祉活動拠点の整備を推進するため、人と人とのつながりを広げ、支え合う地域の実現を図ることを目的とした高齢者居場所づくりや子育て支援の場の地区ボランティアセンター事業を実施する。

＜事業の概要＞

片瀬・江の島地域の福祉活動の拠点として、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが気軽に立ち寄れる居場所「片瀬地区ボランティアセンター（愛称 ひだまり片瀬）」（平成22年1月開設）の充実にに向けた取組を実施しました。

＜事業の実施状況＞

○「居場所・ひだまり」の実施

誰でも気軽に立ち寄れる居場所として、毎週月・水・金曜日午前10時から午後3時に実施しました。毎月第2水曜午前には高齢者向けミニ講座を実施、その他として編み物教室「ふわふわ」・「スマホ相談」・「将棋教室」を実施しました。（令和6年3月末時点128日間開催、利用者延べ1,085人）



○「かたせ・にこにこ広場」の実施

幼児と保護者のフリースペースとして、毎月第3を除く水曜日の午前10時～正午に片瀬市民センター第1談話室で、また、毎月第1を除く木曜日午前10時から正午にボランティアセンターで実施しました。（令和6年3月末時点（水曜）40日間開催、利用者延べ796人。他に、藤沢市と共催の子育て応援メッセやイベントを3回開催、出張にこにこ広場は西浜公園・浪合市民の家・しおさいセンターで計3回開催）

なお、主に0～1歳の赤ちゃんと保護者や妊婦さんを対象として、毎月第3木曜日午前10時から午前11時30分に実施していた「ねんねの赤ちゃんの日」（平成25年5月から開始）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度も休止しました。



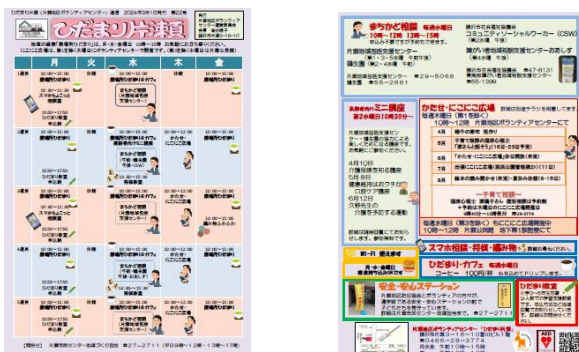
えのしま・かたせ子育て応援メッセ



にこにこ広場クリスマス会

3. まちづくり事業について

○機関紙「ひだまり片瀬通信」の発行 ※平成25年度から実施
令和5年度は第22号(3月)を発行しました。



〈事業の評価・予算〉

目標値 500 人 → 令和5年度実績値 2,388 人 (※令和6年3月末時点)

※活動指標 居場所ひだまり利用者数 (年間)

予算 まちづくり事業 0 円 ※市の地区ボランティアセンター運営費助成金で運営

○従事者交流会の実施

令和5年度は2月に従事者交流会を実施、活動報告・グループトーク等を実施しました。

〈事業の今後の方向性〉

○今後も継続して事業に取り組み、赤ちゃんから高齢者までが気軽にふれあえる居場所づくりを進めていきます。また、高齢者がさらに利用しやすくなるよう、様々な工夫を検討してまいります。

市の「地域の縁側（交流スペース）事業」の指定を受けています！

平成26年10月1日、住民同士のつながりや絆を大切にしながら人の和を広げ、互いの暮らしを協力して支え合う仕組みとして藤沢市の「地域の縁側」事業がスタートするときに、ひだまり片瀬はモデル事業として市から指定を受けました。この指定に伴い、AEDの設置や「いきいきパートナー事業」の受入施設としても認定され、見守りボランティアのスタッフに対してポイントが付与されるなど、ひだまり片瀬の運営について一層の充実を図ることができるようになりました。

＜＜事業名＞＞ まちかど相談事業

＜担当部会＞ ボランティアセンター運営委員会

＜事業の目的＞

誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進するため、子育て相談、高齢者相談、なんでも相談、障がい相談等のまちかど相談事業を実施する。

＜事業の概要＞

子育て・思春期・老後・介護などに関する相談を行政窓口より身近な地域の居場所を活用し、片瀬いきいきサポートセンター（片瀬地域包括支援センター）・在宅介護支援センター（鵜生園）・藤沢市社会福祉協議会（CSW）・東南部障がい者地域相談支援センター（おあしす）・臨床心理士の連携によって実施しました。



＜事業の実施状況＞

○活動場所…片瀬地区ボランティアセンター

「ひだまり片瀬」相談室

○子育て相談…第1除く木曜日、臨床心理士による乳幼児から思春期までの子育てに関する相談を実施しました。（令和6年3月末時点相談件数40件）

○高齢者相談…毎週水曜日、片瀬いきいきサポートセンター・鵜生園の相談員による介護保険制度や日常生活・健康などに関する相談を実施しました。（令和6年3月末時点相談件数10件）

相談に関連した話題の提供や、相談へのきっかけ作りのため、ミニ講座を11回開催しました。（令和6年3月末時点参加者164人）



○CSW相談…令和元年度9月から毎月第2・4水曜日、コミュニティーソーシャルワーカーによる生活の困りごとの相談を開始しました。令和4年4月からは毎月第2水曜日に変更しました。（令和6年3月末時点相談件数4件）

○障がいに関する相談…令和4年4月から毎月第4水曜日に、東南部障がい者相談支援センター相談員による障がいに関する相談を開始しました。（令和6年3月時点相談件数0件）

＜事業の評価・予算＞

目標相談件数100件 → 実績件数54件（※令和6年3月末時点）

予算額206,000円（補助金） → 執行額196,100円（執行率94.2%）

内訳：臨床心理士（子育て相談員）への謝礼

３．まちづくり事業について

〈事業の今後の方向性〉

○今後も身近な相談場所として多くの方々に利用してもらえるようＰＲを行いながら、継続して事業を進めていきます。

○令和４年４月から開始した、障がい者地域相談支援センターおあしす相談員による障がい者相談を地域に周知し、障がいへの理解が深まる地域を目指します。

3. まちづくり事業について

<<事業名>> **青少年健全育成事業**

<担当部会> 青少年健全育成部会

<事業目的>

青少年関係団体同士のの情報交換や活動の連携を図り、青少年事業の活動充実を目指す。

<事業概要>

青少年関係団体間の情報交換会や青少年の課題解決に向けた事業を実施。

<今年度の実施状況>

昨年度実施した「子どもの防災についての情報交換会」にて、参加者間で「子どもの防災に関する事業」実施の必要性が共有され、今年度は11月23日に「子どもの防災」をテーマに片瀬公民館と共催で「片瀬のまちでぼうさいビンゴ!」という子ども講座を実施。登下校時や自宅での留守番時等、子どもだけで被災した場合に適切な避難行動を行うことができるよう、片瀬地区内を歩きながら防災の基礎知識を学習した。



まち歩きの様子

●「片瀬のまちでぼうさいビンゴ!」

日 時 令和5年11月23日(木) 午前9時半から12時半まで

場 所 小田急線片瀬江ノ島駅～片瀬市民センター周辺 他

講 師 防災士 宮本裕子 氏

運営協力 片瀬地区青少年育成協力会 8人

藤沢市危機管理課 2人

防災士・地域ファシリテーターボランティア 7人

物資協力 片瀬地区自主防災会(参加賞の提供)

内 容 1 片瀬地区内を歩きながらビンゴ形式にて防災の基礎知識を学習。

2 まち歩き後に片瀬市民センターにて、講座形式による振り返り。

参加者数 小学生 22人・保護者 3人



センターにて振り返り

<今年度の成果>

防災の基礎知識をゲーム感覚で学習することができ、子どもたちの防災への興味や関心を育むことができた。また、参加した保護者からも子どもと一緒に学習することにより「子どもの目線」で防災について考えることができたという意見もあり、更なる地域防災力の向上に向けて、地域全体が一体となって防災に取り組んでいくことの重要性を参加者と共有することができた。

3. まちづくり事業について

〈今後の方向性〉

- ・子どもたちの現状について、積極的な情報収集、共有を行っていく中で、見えた課題に対し取組を検討していく。
- ・次世代交流の促進や子どものコミュニケーション不足の解消のため、青少年関係団体とその他の地域団体等との事業連携を推進させることで、地域活動に子どもが参画する機会を増やす。

3. まちづくり事業について

<<事業名>> 民俗文化財等継承事業

<担当部会> 郷土文化推進部会



©藤沢市

片瀬こまを回して
遊ぶふじキュン♡

<事業の目的>

片瀬地区にゆかりのある文化財や伝統の豊かさを次世代に伝え、地域住民の地元愛醸成を図り、地域振興につなげていくことを目的に保存会などの支援を行う。

<事業の概要>

片瀬地区で300年前から唄い継がれ市無形民俗文化財として指定されている「片瀬餅つき唄」や片瀬地区の伝統玩具「片瀬こま」といった片瀬地区にゆかりのある文化財の継承・発展のため支援を行う。

<事業の実施状況>

○片瀬餅つき唄保存会メンバーの高齢化による担い手不足が大きな課題となっております。活動が停滞している状況のため、具体的な支援ができておりませんが、これまでの映像記録等をたどり、どのような支援ができるかどうかを含め、定期的に課題共有しています。

○片瀬こま保存会では、藤沢市に留まらず近隣の自治体や岩手県大船渡市、東京都大島町との交流も行われ、令和5年度では計24回の事業が実施されています。そのうち、片瀬こま大会3回、片瀬こま講演会1回が片瀬・江の島まちづくり協議会と片瀬こま保存会の共催事業として開催されました。子どもから大人まで数多くの参加者に片瀬こまの魅力が伝えられています。



片瀬餅つき唄披露の様子（過去）



片瀬こま大会 金こまチャレンジ

<事業の評価・予算>

予算額 15,000 円（消耗品費）→ 執行額 15,000 円（執行率 100%）

<事業の今後の方向性>

片瀬地区にゆかりのある民俗文化財の継承・発展のために活動を支援します。

＜＜事業名＞＞ 片瀬・江の島歴史文化継承事業

＜担当部会＞ 郷土文化推進部会

＜事業の目的＞

片瀬地区の歴史的・文化的な魅力を発掘し、地域住民の郷土愛を醸成することを目的とする。

＜事業の概要＞

旧事業である江の島道の整備事業は、その成果物として作成した「片瀬歴史マップ」の発行と同時に事業を完了し、江の島道に限らず広い意味で片瀬・江の島の歴史文化を次世代に継承していくことを目的に、「片瀬・江の島歴史文化継承事業」と改名。「片瀬歴史マップ」を活用しつつ、地域住民の郷土愛を醸成していくことを目標とする。

＜事業の実施状況＞

○令和4年3月に作成した「片瀬歴史マップ」を活用した事業として、令和5年11月10日に片瀬公民館と共催で「片瀬歴史マップめぐり～片瀬川に架かる橋 今昔～」を開催しました。片瀬川に架かる橋の魅力と歴史を参加者の方々に伝えるため、郷土文化推進部会 甘粕部会長を講師として秩父宮記念体育館から江ノ島大橋までをめぐり行程を企画しましたが、当日は天候に恵まれず、道中雨が強まったため急遽片瀬しおさいセンターで座学を行いました。



新屋敷橋にて



座学の様子

＜事業の今後の方向性＞

- ・片瀬地区に関する写真や資料を収集し、それを活用した事業を考えております。また、令和3年度に作成した「片瀬歴史マップ」の活用も視野に入れつつ、地域住民の郷土愛を醸成できるような事業等を企画検討していきます。
- ・旧事業の江の島道の整備も継続した維持管理が求められるため、定期的な点検の実施等行います。

＜事業名＞ 緑と花いっぱい推進活動事業

＜担当部会＞ なし

＜事業の目的＞

藤沢市の名所として代表的な「江の島」の玄関口である江の島弁天橋周辺の景観を整え
るとともに、周辺住民の住環境を良好に保つことを目的としています。

＜事業の概要＞

全国でも有数の観光地である片瀬・江の島地域としてふさわしい景観確保等のため、地域
ボランティアを募り、花植え・草取りを定期的実施する体制を築きました。

＜事業の実施状況＞

江の島弁天橋において年 2 回（6 月、11 月頃）の花の植替え、定期的な水遣り、草取りを
行っている「弁天橋花いっぱい愛好会」に対して、活動の支援を行いました。花の植え替え・
維持管理には「片瀬地区子ども会連絡会」「江の島・藤沢ガイドクラブ」も参加し、世代を
超えた地域内の取組となっています。

「弁天橋花いっぱい愛好会」は創立から 13 年経過しましたが、チーム FUJISAWA2020 の登
録ボランティアや片瀬地区人材・情報バンクセンターで活動する方が花植え活動に新たに参
加するなどしており、活動の輪を維持・拡大していく必要があることから、団体の活動を継
続して支援していきます。

＜事業の評価・予算(令和 6 年 3 月末時点)＞

目標値 100 m² → 実績値 120 m² ※活動指標 花植え活動等実施面積（累計）

予算額 37,100 円（苗等消耗品費）→ 執行額 1,240 円（執行率 3.0%）

予算額 12,000 円（上水道代）→ 執行額 6,248 円（執行率 52.0%）

＜事業の今後の方向性＞

江の島弁天橋の植栽帯において花の植え替え、定期的な水やり、草取りを行っている「弁
天橋花いっぱい愛好会」に対しての活動支援を継続して行います。コロナ禍の収束後、江の
島周辺を訪れる人は増え続けており、景観の美化や維持、地域生活の課題である防犯や環境
浄化が重要と考えられるため、新たなボランティアや賛同者の受入れを進め、行政・関係団
体の協力を得ながら、活動を継続していきます。



花植え前の耕作の様子



夏の花植えの様子

4. 地域課題の検討について

4. 地域課題の検討について

<<地域課題>> 広報関連課題

<担当ワーキング> 広報事業ワーキング・グループ

<事業の目的>

新たな情報発信の手段や、既存の情報発信手段の見直しを行い、まちづくり協議会の活動や地域活動について、幅広い年代の方に周知を図ることを目的とする。

<事業の概要>

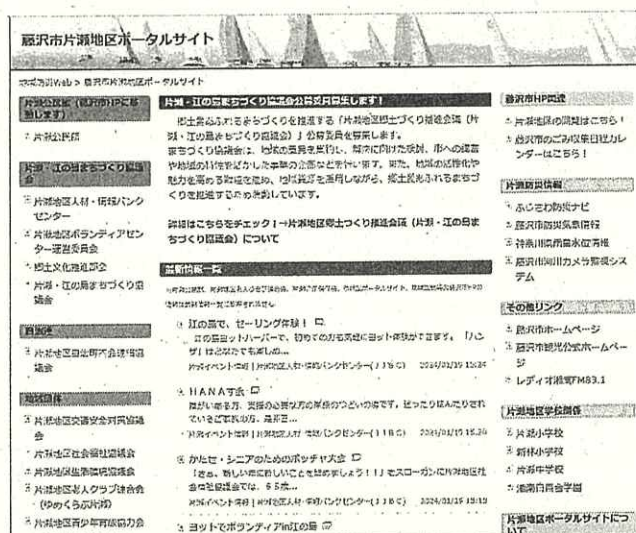
片瀬地区の情報発信の基本となる地域回覧や地域団体で運営される片瀬地区ポータルサイトの見直しといった既存の情報発信手段の見直しを行いつつ、Instagramの活用を目指した検討を行う。

<事業の実施状況>

・片瀬地区ポータルサイトの改善に取り組みました。こちらは片瀬地区の地域団体等で運営、更新されていますが、コロナ禍で事業が縮小したこともあり、ページ内の更新が滞っている状態とだったため、各団体に更新の働きかけを行いながら、ページ利用者の利便性を向上させるために、最新情報がトップページの最上部に表示されるように編集したことや、地域回覧やごみ収集カレンダーとリンクをさせるなど、改善を図りました。

・片瀬地区の地域回覧は藤沢市ホームページに掲載されていますが、ひと月の閲覧数が平均して約120回程度となっており、さらなる周知が必要だと考えました。2024年3月25日号の広報配布に合わせ、地域回覧にて二次元コードを印刷したシールと貼り紙を、各町内会に配布させていただきました。

・Instagramの活用について検討した結果、市が運用に関与するSNSに地域住民が参画する場合、情報の管理上の問題でいくつかの課題が挙げられたため、課題解決に向けた検討を行いました。



スマホで見れます！

回覧



<事業の今後の方向性>

- ・地域団体に所属する市民皆が集ってポータルサイトを編集できるよう、まずは環境から整えていきます。そのうえでポータルサイトの操作方法の研修会などで根本的な担い手不足解消につなげていきます。
- ・見やすい回覧の提言について、年間を通して作成が予定されているチラシのうち、あらかじめチラシを選定し、個別にアプローチを図ります。
- ・地域回覧のHPの周知について、継続的な周知を行います。
- ・事業発足から取り組んできた活動も継続性を確保しつつ、SNSの運用に重点を置きます。

参考資料

2024年3月2日

片瀬・江の島まちづくり地区集会資料

2023 まちづくりアンケート 集計結果

「みんなが参加したくなる

まちづくりを目指して」

片瀬・江の島まちづくり協議会

はじめに

今年度、片瀬・江の島まちづくり協議会は『みんなが参加したくなるまちづくり』を目指して活動してきました。

『みんなが参加したくなるまちづくり』とはどういう事なのか、片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区がより「暮らしやすいまち」となるためのヒントをいただきたく、2023年10月にアンケートを実施し、報告書を作成いたしました。

このアンケートを実施することで、どうしたらまちづくりにみんなが参加したくなるか、すぐに答えを出す事は難しいですが、この結果が、より良い、暮らしやすいまちづくりを進めるきっかけとなるよう、十分に検証していきたいと考えております。

地域に住んでいる方が、地域の方たちとつながり、10年、20年先を見据え、よりよい地域となっていくために出来ることを少しずつ、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

今後も片瀬・江の島まちづくり協議会へのご協力をお願いいたします。

2024年3月

片瀬・江の島まちづくり協議会

(片瀬地区郷土づくり推進会議)

片瀬・江の島まちづくり協議会 令和5年度アンケートについて

1 目的

住民の価値観やライフスタイルの変化により、住民の「共助」に対する意識の希薄化を招き、地域のために活動する自治会・町内会では担い手不足、役員の高齢化などの課題を抱えている現状に対し、若い世代(子育て世代)等の地域活動に対する意見等を把握、分析し、今後の当協議会や地域団体の活動の方向性や持続可能な地域活動を検討する基礎資料とすることを目的としてアンケート調査を実施する。

2 実施方法

(1)対象者

片瀬地区在住の住民

(2)周知方法

① 10月10日号まちづくり通信 44 号発行

資料1

② ちらし(A5)を配布

資料2

(3)回答方法

③ インターネットで回答(市電子申請を利用)

④ アンケート用紙での回答(市民センター窓口で配布、回収)

(4)回答期間

2023年10月5日(水)から11月10日(金)まで

(5)アンケート内容 アンケート用紙

資料3

(6)回答数 151件(うち電子回答97件)

片瀬・江の島まちづくり協議会

まちづくり通信

No. 44
2023年10月5日発行

「まちづくりアンケート」に ご協力をお願いします！

今年度は、『みんなが参加したくなるまちづくり』を目指して活動しています。

片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区が地域活動により、より暮らしやすいまちとなるためのヒントをいただきたく、片瀬・江の島まちづくり協議会では、アンケートを実施することとしました。たくさんの声をお寄せください。

皆様のご協力をお願いいたします。

インターネットからの回答をお願いします。
回答はこちらから 



アンケート実施期間：2023年10月5日（木）から11月10日（金）まで

＜回答方法＞ ①インターネットから回答（URLまたは二次元コード）

URL: https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/142051-u/offer/offerList_detail?tempSeq=59432

②アンケート用紙に記入

片瀬市民センターの窓口でお渡しします。



まちづくり通信第44号

発行 片瀬・江の島まちづくり協議会

発行人 会長 畠山 義昭

片瀬ポータルサイトはこちら →

<https://chiiki-bosai.jp/hp/kataseportal>



事務局: 片瀬市民センター

地域づくり担当

電話: 0466 (27) 2711 FAX: 0466 (25) 8907

電子メール: fj-kata-c@city.fujisawa.lg.jp

片瀬・江の島まちづくり協議会（片瀬地区郷土づくり推進会議）とは？

●協議会の役割

地域の意見を集約し、地域課題の把握、解決に向けた検討、市への提言や地域の特性を活かした事業の企画などを行います。また、地域の活性化や魅力を高める取組みを進め、地域資源を活用しながら、郷土愛あふれるまちづくりを推進するため、4つの部会で、6つの事業に取り組んでいます。

●委員構成

公募委員7人、地域団体推薦委員14人の合計21人で活動しています。また、委員のほかに活動に関心のある方が、協力員として特定の事業に参加しています。

●部会等構成

人材・情報バンクセンター運営委員会、ボランティアセンター運営委員会、青少年健全育成部会、郷土文化推進部会の4つの部会と地域広報事業ワーキンググループ

●地区集会

片瀬地区全体を対象にした市民集会です。地域の皆さんからご意見をいただいたり、地域課題の掘り起しができる貴重な機会と捉えています。参加は無料で、どなたでも参加することができます。

片瀬地区まちづくりが取り組んでいる 令和5年度の活動の概要

ボランティアセンターの運営

地域の福祉活動の拠点として、赤ちゃんからお年寄りまで誰もが気軽に立ち寄れる居場所「ひだまり片瀬」、「かたせ・にここ広場」を開所。

まちかど相談

誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進するため、子育て相談、高齢者相談、CSW相談、障がい者相談などのまちかど相談を実施。

民俗文化財等継承のための活動

「片瀬餅つき唄」の保存会や伝統玩具である「片瀬こま」の保存会など、地域にゆかりのある民俗文化財等継承活動の支援の実施。

緑と花いっぱい推進活動の支援

全国有数の観光地である片瀬・江の島地域としてふさわしい景観保持並びに生活のうえで課題となる防犯や環境美化につながる団体の活動の支援。

人材・情報バンクセンターの運営

地域の活動と人をつなぎ、地域の情報発信、新たな人材発掘など、地域活動の活性化を推進するため、地域の人材や情報の拠点としての活動を実施。

青少年健全育成のための活動

地域の青少年事業の充実を目指し、青少年を対象とした団体間の情報共有や活動連携のため、意見交換会など活動支援を実施。

片瀬・江の島歴史文化継承のための活動

片瀬・江の島の歴史・文化の魅力を広めるための活動の継続。「片瀬歴史マップ」地域を活用した講演会やまち歩き等の事業の企画、実施。

情報発信に関する活動（広報事業ワーキンググループ）

まちづくり協議会の活動や地域のことを知ってもらうために、幅広い年代に合わせた情報発信、SNSを活用した魅力ある情報発信を目指す

<ホームページ>

片瀬地区では様々な団体が活動しています。

地域団体を紹介したまちづくり通信はこちら（第42号）

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kata-c/kurashi/shimin/chiiki/katase/kyogikai/documents/matituu42.pdf>

片瀬・江の島まちづくり協議会についてはこちら

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kata-c/kurashi/shimin/chiiki/katase/kyogikai/index.html>



《まちづくりアンケート》にご協力をお願いします。



インターネットからの
回答をお願いします。

👉 回答はこちらから



片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区が地域活動により、より暮らしやすいまちとなるためのヒントをいただきたく、片瀬・江の島まちづくり協議会では、アンケートを実施することとしました。ぜひたくさんの方の声を寄せてください。皆様のご協力をお願いいたします。

＜実施期間＞ 2023年10月5日(木)から11月10日(金)まで

＜回答方法＞ ①インターネットから回答(URLまたは二次元コード)

URL: https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/142051-u/offer/offerList_detail?tempSeq=59432

②アンケート用紙に記入

市民センター窓口でお渡しします。

片瀬ポータルサイトはこちら →

<https://chiiki-bosai.jp/hp/kataseportal>



事務局: 片瀬市民センター 地域づくり担当

電話 : 0466(27)2711 FAX: 0466(25)8907

電子メール: fj-kata-c@city.fujisawa.lg.jp

片瀬・江の島まちづくり協議会 アンケート

みんなが参加したくなるまちづくりを目指して

片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区が地域活動により、より暮らしやすいまちとなるためのヒントをいただきたく、片瀬・江の島まちづくり協議会では、アンケートを実施することとしました。

ぜひたくさんのお声をお寄せください。皆様のご協力をお願いいたします。

(ご記入にあたり)

該当する番号に○をつけてください。

複数回答でのその他の欄はご自由にご記入ください。

【アンケート】

1 年齢(年代)は？

- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代
⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代 ⑨ 90代以上

2 お住まいはどちらですか？

- ① 江の島 ② 片瀬 ③ 片瀬海岸 ④ 片瀬山
⑤ 片瀬目白山 ⑥ その他(藤沢市内) ⑦ その他(藤沢市外)

3 今のお住まいに住み始めてどれくらいですか？

- ① 1年未満 ② 1～5年未満 ③ 5～10年未満
④ 10～20年未満 ⑤ 20年以上

4 片瀬地区はどんなまちだと感じていますか？(複数回答可)

- ① 自然が豊かな場所がある ② 大きな祭り等があり賑わいがある
③ 子育てしやすい ④ 公共交通が多く便利
⑤ 高齢者が暮らしやすい ⑥ 防犯・交通安全の対応が安心できる
⑦ 介護や子育てなど福祉の相談が身近でできる ⑧ 隣近所の人とあいさつできる関係がある
⑨ 災害への意識が高い ⑩ その他(下記枠内にご記入ください)

その他記入欄

次項に続く ⇒

5 地域の活動やイベントに参加したことはありますか？

① ある ⇒5-1へ

② ない ⇒5-2へ

5-1参加したことが「ある」と回答した方

⇒参加したことがある地域活動やイベントはどんなものですか？（複数回答可）

- ① 地域や海岸などの清掃活動 ② 防災に関する活動（防災訓練、津波避難訓練）
- ③ 防犯や交通に関する活動（パトロールなど） ④ デーキャンプなど青少年に関する活動
- ⑤ 体育レクリエーション大会（地域の運動会）などのスポーツ事業
- ⑥ 町内会のまつり ⑦ ラジオ体操 ⑧ 公民館まつり ⑨ 公民館の講座
- ⑩ 地区集会などの地域住民の意見交換会 ⑪ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

5-2参加したことが「ない」と回答した方

⇒地域活動やイベントに参加しない理由を教えてください。（複数回答可）

- ① 仕事や余暇・趣味などで時間や余裕がない ② 地域活動に興味がない
- ③ 地域活動に興味はあるが参加方法が分からない
- ④ SNSなどの普及により、地域と違う場所にコミュニケーションの場がある
- ⑤ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

地域の活動やイベントなどは、地域の団体により行われていますが、地域団体の担い手が減少し、活動の継続が難しくなっています。

次は、生活していく中での、地域との関りについてお聞きます。

6 地域で活動している団体を知っていますか？（複数回答可）

- ① 片瀬・江の島まちづくり協議会（片瀬地区郷土づくり推進会議）
- ② 片瀬地区自治町内会連絡協議会
- ③ 片瀬地区自主防災協議会
- ④ 片瀬地区社会福祉協議会
- ⑤ 片瀬地区青少年育成協力会
- ⑥ 片瀬地区生活環境協議会
- ⑦ 片瀬地区交通安全対策協議会
- ⑧ 片瀬地区防犯協会
- ⑨ 片瀬市民スポーツの会
- ⑩ 片瀬地区民生委員児童委員協議会
- ⑪ 片瀬地区青少年支援フォーラム
- ⑫ 片瀬地区老人クラブ連合会
- ⑬ 江の島振興連絡協議会
- ⑭ 片瀬地区商店会
- ⑮ 知らない



7 地域活動に関わりたいと思いますか？

- ① 思う ⇒8へ ② 思わない ⇒7-1へ

7-1思わないと回答した方へ

⇒思わない理由を教えてください。

7-1回答後 ⇒8へ

- ① 仕事等忙しく会議等に出ることができない ② 地域活動に興味がない
③ 地域活動をしてみたいが参加方法が分からない ④ やりたい活動がない
⑤ 年齢や健康に不安がある ⑥ 参加へのハードルが高い
⑦ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

8 どのような活動であれば関わりたいと思いますか？（複数回答可）

- ① 防犯パトロールなどの防犯活動 ② 自主防災組織としての防災活動
③ 高齢者に対する支援活動 ④ 子育てに対する支援活動
⑤ 子供同士の交流を支援する活動 ⑥ 地域の環境美化・清掃活動
⑦ 旗振りなどの交通活動 ⑧ 誰もが交流できる居場所作りの支援
⑨ 祭りや歴史・文化の継承を支援する活動 ⑩ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

9 地域活動に参加するとしたら、どのような方法であれば参加することができると思いますか？（複数回答可）

- ① 土・日の活動 ② 夜間の活動 ③ オンラインでの会議
④ メールやLINEなどでの連絡 ⑤ イベントの手伝いだけ
⑥ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

10 町内会に入っていますか？

- ① 入っている ⇒11へ ② 入っていない ⇒10-1へ

10-1入っていないと回答した方へ

⇒町内会に入らない理由を教えてください。

10-1回答後 ⇒11へ

- ① 町内会に入りたいが入り方が分からない ② 地域活動に興味がない
③ 役員や会費などに負担感があるから ④ 入るメリットを感じない
⑤ 勧誘されなかった ⑥ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

次項に続く ⇒

11 町内会に加入する場合、重要視することは何ですか？（複数回答可）

- ① メリット・デメリット
- ② 活動内容（防災・防犯・清掃活動など）
- ③ 会費の金額
- ④ 運営方法（運営体制）
- ⑤ 加入案内の資料
- ⑥ その他（下記枠内にご記入ください）

その他記入欄

12 地域の「担い手不足」解消のためにボランティアも有償であるべき、との声もあります。有償なら「担い手」として地域活動をやっても良いと思いますか？

- ① 思う
- ② 思わない

最後に

13 あなたにとって暮らしやすいまちになるにはどうしたら良いと思いますか？
何かご提案があればご記入ください。（自由記述）

ご協力ありがとうございました。

【片瀬・江の島まちづくり協議会】とは？

地域の意見を集約し、地域課題の把握、解決に向けた検討、市への提言や地域の特性を活かした事業の企画などを行います。また、地域の活性化や魅力を高める取組みを進め、地域資源を活用しながら、郷土愛あふれるまちづくりを推進しています。

今年度は、“みんなが参加したくなる地域づくり”をテーマに、どうすれば様々な世代の方が地域とつながり、関わっていくことができるかを検討しています。

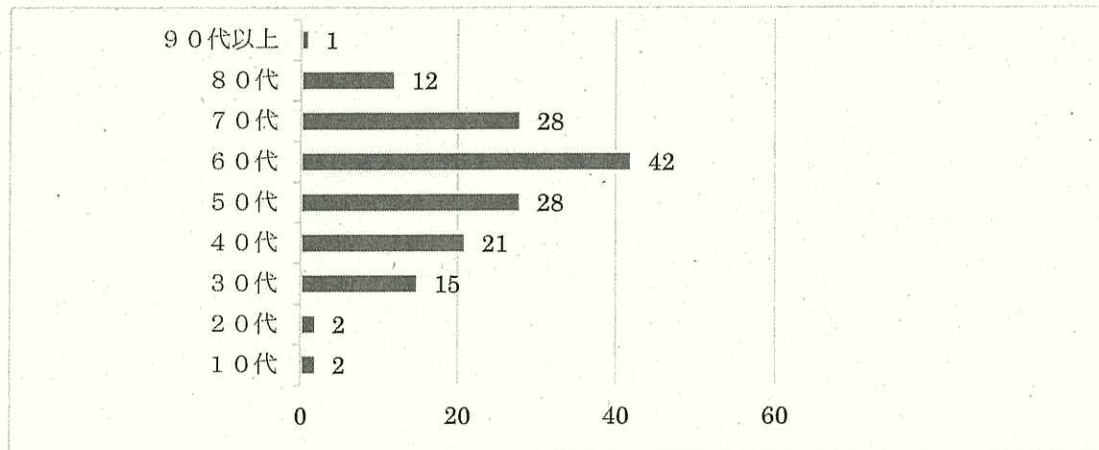
事務局：片瀬市民センター内 TEL27-2711 Fax25-8907



【アンケート結果】

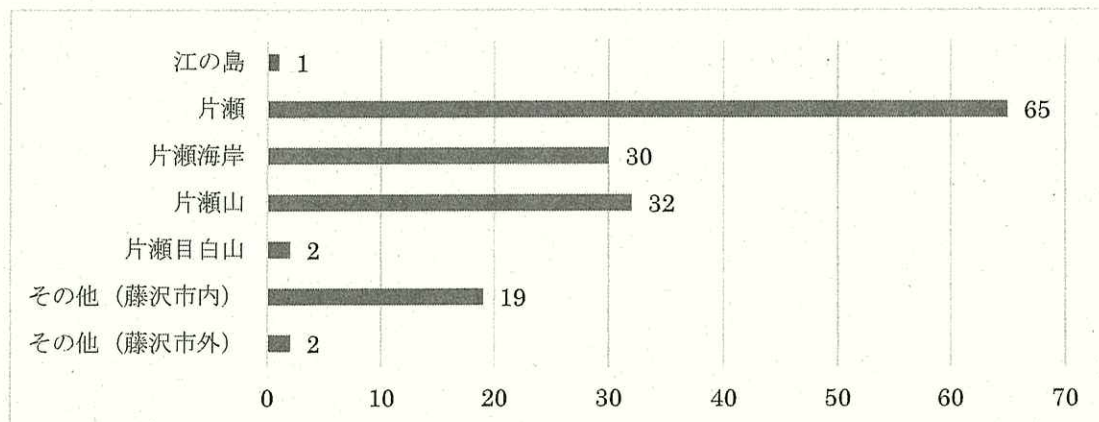
1 年齢(年代)は？

単位:件



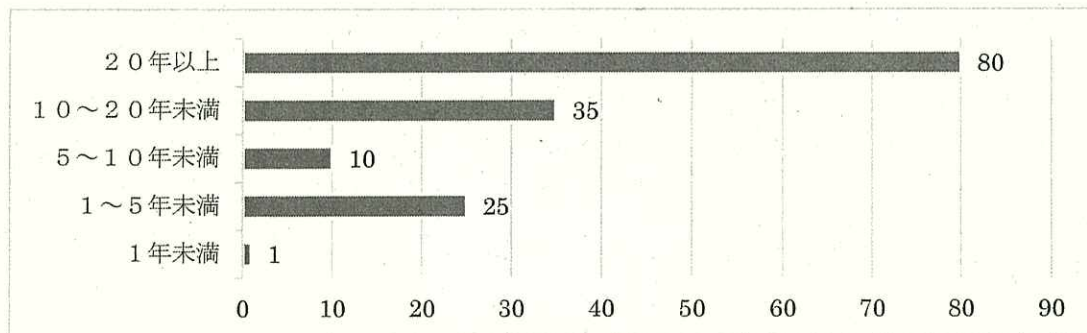
2 お住まいはどちらですか？

単位:件



3 今のお住まいに住み始めてどれくらいですか？

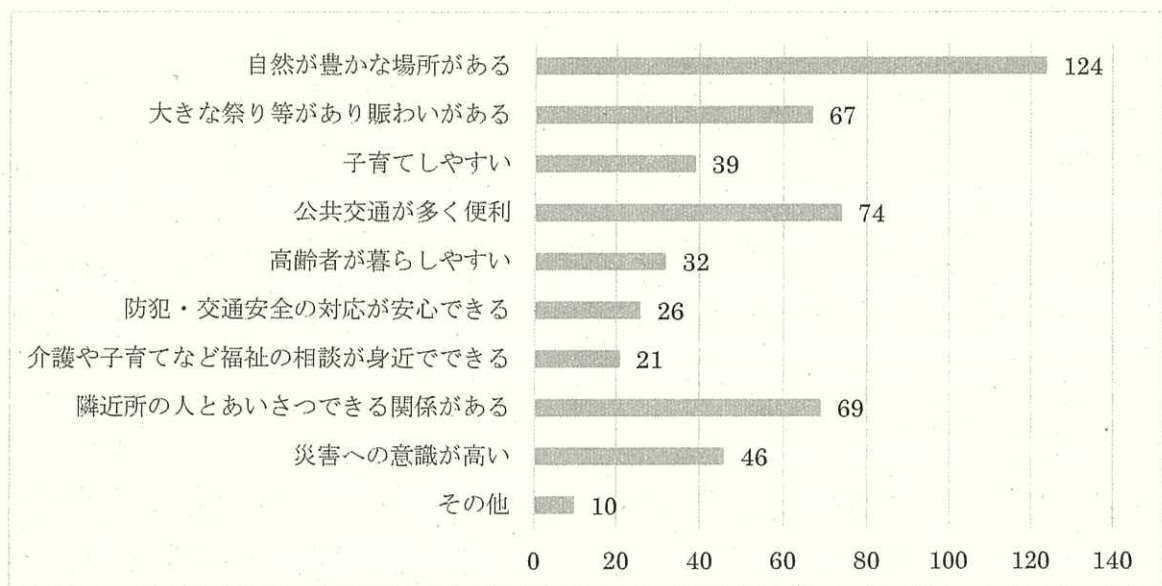
単位:件



4 片瀬地区はどんなまちだと感じていますか？(複数回答可)

- ①自然が豊かな場所がある
- ②大きな祭り等があり賑わいがある
- ③子育てしやすい
- ④公共交通が多く便利
- ⑤高齢者が暮らしやすい
- ⑥防犯・交通安全の対応が安心できる
- ⑦介護や子育てなど福祉の相談が身近でできる
- ⑧隣近所の人とあいさつできる関係がある
- ⑨災害への意識が高い
- ⑩その他

単位:件

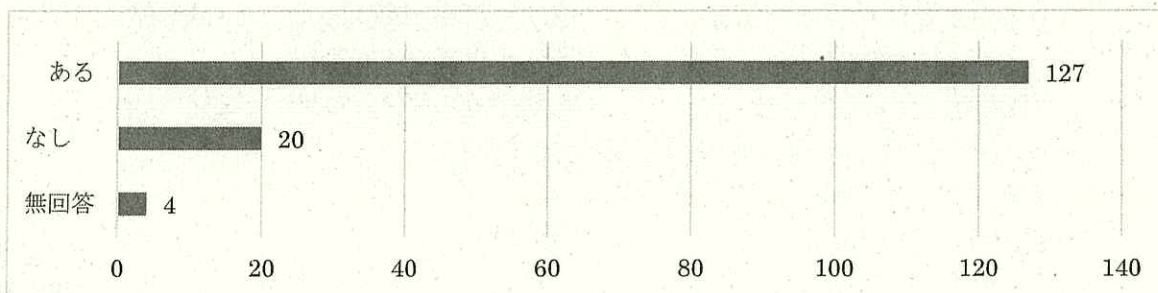


その他

- ・江の島があり、観光地である
- ・相続その他で細分化。当然松や植栽など緑が激減
- ・高齢化で知人が激減、以前より寂しさを感じる。
- ・近くに大きなスーパーがなくて不便
- ・地元の人が少ない、見知らない人や、怖そうな人が多く、住み心地が悪くなってきたまちと痛感している
- ・街の中(道路他)、公園等にちょっと座って休めるベンチが非常に少ないので設置して欲しい
- ・近くに新林公園(地区)があり、散策や自然が豊かである。
- ・新しく転居した家族は日常の挨拶をしない時代になったと痛感
- ・身近で日常品を入手しにくくなって不便
- ・学校と地域との関係が深くある
- ・近隣の人は挨拶しても返してくれず、祭りは夜中も明け方もうるさい

5 地域の活動やイベントに参加したことはありますか？

単位:件



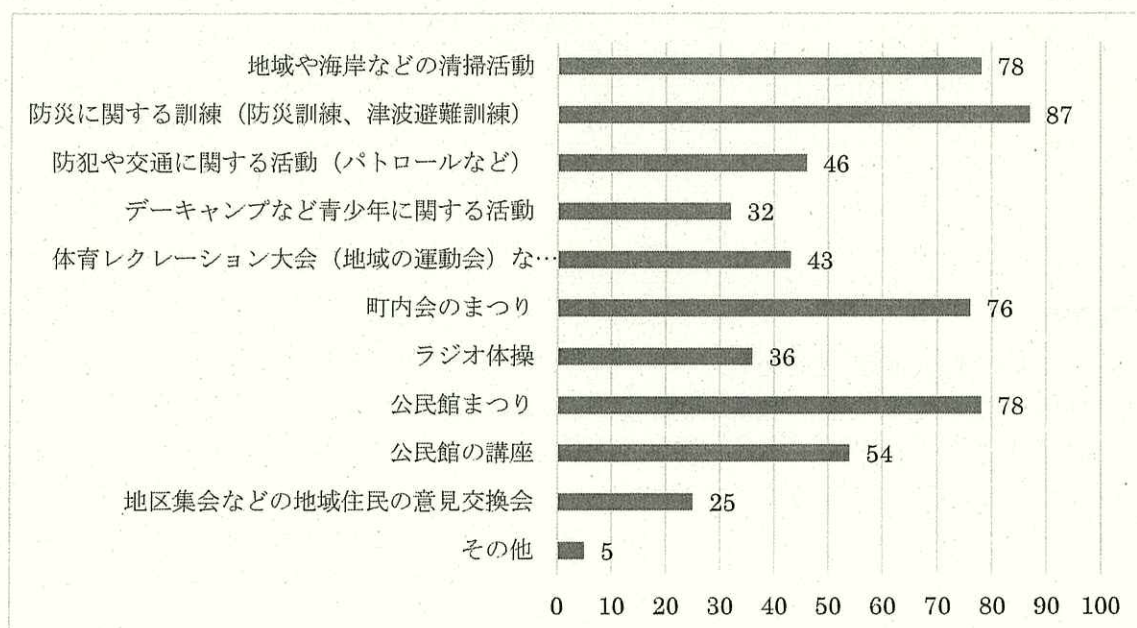
5-1 参加したことが「ある」と回答した方

⇒参加したことがある地域活動やイベントはどんなものですか？

(複数回答可)

- ①地域や海岸などの清掃活動
- ②防災に関する活動(防災訓練、津波避難訓練)
- ③防犯や交通に関する活動(パトロールなど)
- ④デーキャンプなど青少年に関する活動
- ⑤体育レクリエーション大会(地域の運動会)などのスポーツ事業
- ⑥町内会のまつり
- ⑦ラジオ体操
- ⑧公民館まつり
- ⑨公民館の講座
- ⑩地区集会などの地域住民の意見交換会
- ⑪その他

単位:件



その他

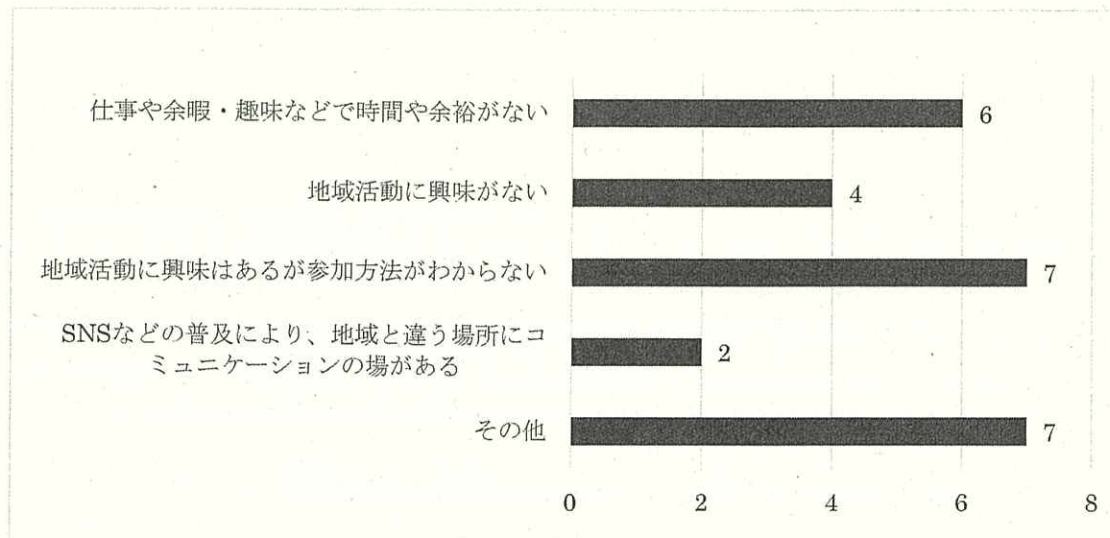
- ・観光イベント・自治会・東リ町アートフェス・片瀬諏訪神社例大祭
- ・ハロウィンイベント

5-2 参加したことが「ない」と回答した方

⇒地域活動やイベントに参加しない理由を教えてください。(複数回答可)

- ①仕事や余暇・趣味などで時間や余裕がない ②地域活動に興味がない
 ③地域活動に興味はあるが参加方法が分からない
 ④SNSなどの普及により地域と違う場所にコミュニケーションの場がある
 ⑤その他

単位:件



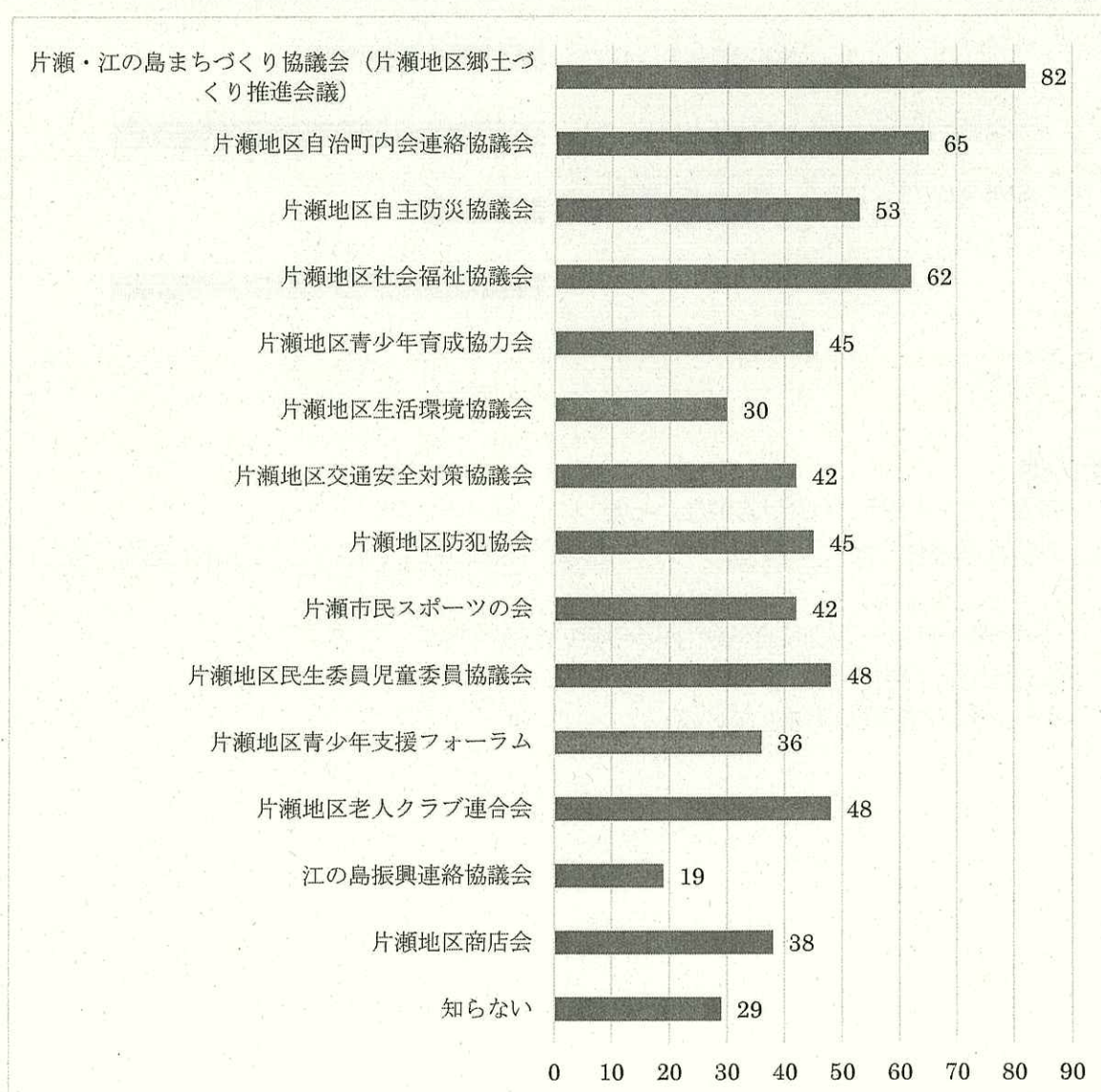
その他

- ・参加したいと思うプログラムがなかった
- ・外部から移住した人々と、昔からその地域に住まわれている方との円滑な交流が持ちにくい。
- ・子供がいなくて、参加の必要性が余り無い気がする
- ・女性が多く、男としては参加しにくい。
- ・ボランティア活動を実施している

6 地域で活動している団体を知っていますか？(複数回答可)

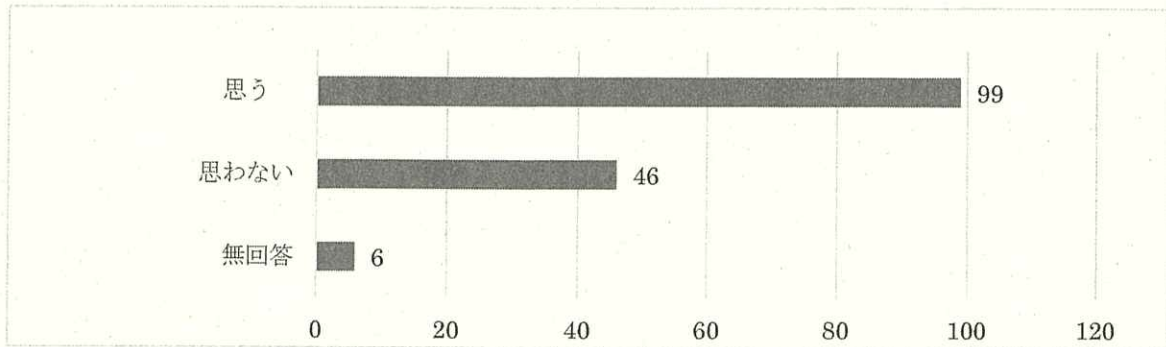
- ①片瀬・江の島まちづくり協議会(片瀬地区郷土づくり推進会議)
- ②片瀬地区自治町内会連絡協議会
- ③片瀬地区自主防災協議会
- ④片瀬地区社会福祉協議会
- ⑤片瀬地区青少年育成協力会
- ⑥片瀬地区生活環境協議会
- ⑦片瀬地区交通安全対策協議会
- ⑧片瀬地区防犯協会
- ⑨片瀬市民スポーツの会
- ⑩片瀬地区民生委員児童委員協議会
- ⑪片瀬地区青少年支援フォーラム
- ⑫片瀬地区老人クラブ連合会
- ⑬江の島振興連絡協議会
- ⑭片瀬地区商店会
- ⑮知らない

単位:件



7 地域活動に関わりたいと思いますか？

単位:件

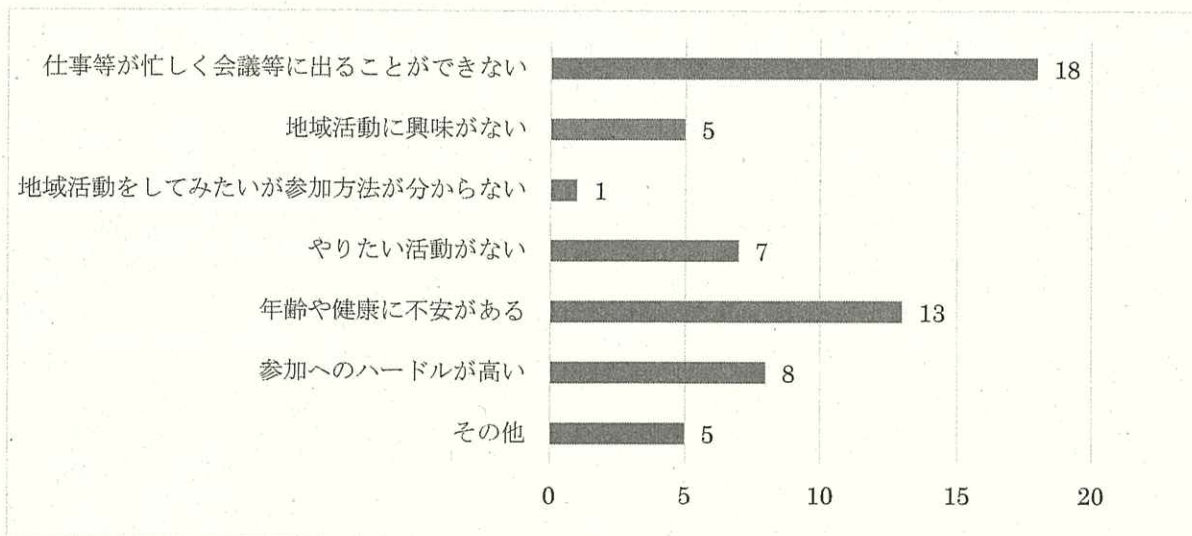


7-1 思わないと回答した方へ

⇒思わない理由を教えてください。

- ①仕事等忙しく会議等に出ることができない ②地域活動に興味がない
 ③地域活動をしてみたいが参加方法が分からない ④やりたい活動がない
 ⑤年齢や健康に不安がある ⑥参加へのハードルが高い ⑦その他

単位:件



その他

- ・既存の団体に新規に参加するハードルが高い。
- ・週末は予定が入ることが多いので、子供が学校で不在の間に済ませたい
- ・健康にやや不安あり。時間の余裕が無い。

7-1 地域活動に関わりたいと思わない理由							単位:件
	仕事等が忙しく会議等に出ることができない	地域活動に興味がない	地域活動をしてみたいが参加方法が分からない	やりたい活動がない	年齢や健康に不安がある	参加へのハードルが高い	その他
10代	1	0	0	0	0	0	0
20代	1	0	0	1	0	0	1
30代	1	2	0	1	0	1	1
40代	3	1	0	0	1	2	0
50代	5	2	0	0	0	1	1
60代	4	0	1	1	4	2	2
70代	2	0	0	1	3	2	2
80代	1	0	0	3	4	0	1
90代以上	0	0	0	0	1	0	0
合計	18	5	1	7	13	8	8

7-1 から見えること

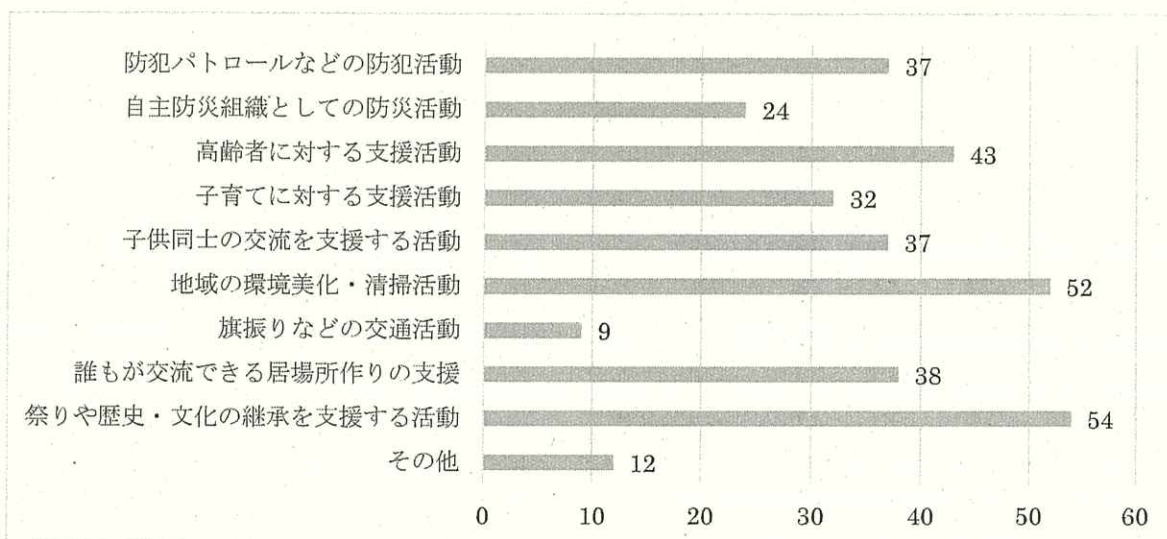
「若い世代は忙しく、地域活動に関わるのが難しい」、「高齢になると健康に不安」などを抱え、「参加したい時だけ参加する」「無理をしない地域活動」を望んでいるのではないかな。



8 どのような活動であれば関わりたいと思いますか？(複数回答可)

- ①防犯パトロールなどの防犯活動
- ②自主防災組織としての防災活動
- ③高齢者に対する支援活動
- ④子育てに対する支援活動
- ⑤子供同士の交流を支援する活動
- ⑥地域の環境美化・清掃活動
- ⑦旗振りなどの交通活動
- ⑧誰もが交流できる居場所作りの支援
- ⑨祭りや歴史・文化の継承を支援する活動
- ⑩その他

単位:件



問8 どのような活動であれば関わりたいと思うか

単位:件

	防犯パトロール などの防犯活 動	自主防災組織 としての防災活 動	高齢者に対す る支援活動	子育てに対す る支援活動	子供同士の交 流を支援する活 動	地域の環境美 化・清掃活動	旗振りなどの交 通活動	誰もが交流でき る居場所作りの 支援	祭りや歴史・ 文化の継承を 支援する活動	その他
10代	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0
20代	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0
30代	2	1	2	8	10	7	1	5	6	0
40代	2	1	2	3	4	10	2	4	10	3
50代	9	6	9	8	9	12	1	7	7	2
60代	18	9	16	8	10	8	1	11	15	7
70代	5	7	12	3	2	12	4	8	12	2
80代	1	0	2	0	0	1	0	1	3	0
90代以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	37	24	43	32	37	52	9	38	54	14

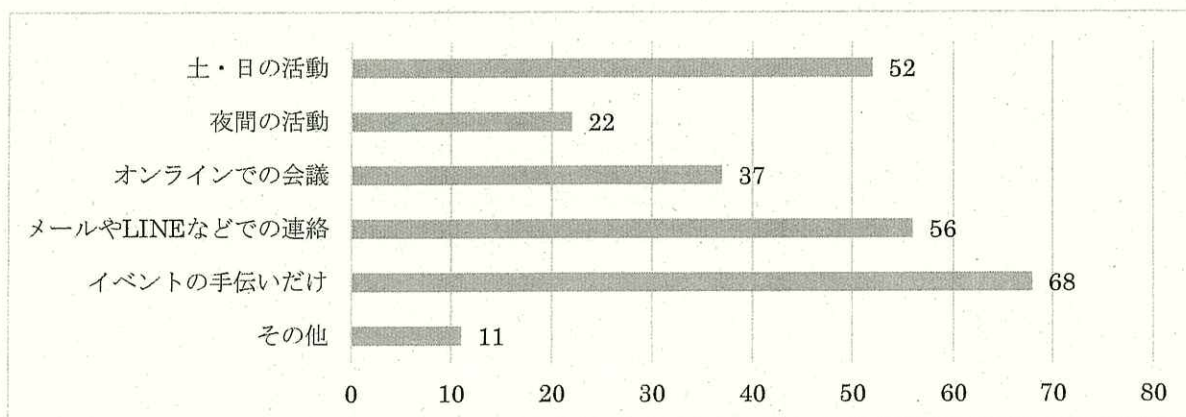
問8から見えること

まつりや清掃活動などその日で終わる“イベント的な活動”ならやりたい。
問7と同じ“参加したい時だけ参加する”“無理をしない地域活動”が良い。

9 地域活動に参加するとしたら、どの様な方法であれば参加することができると思いますか？(複数回答可)

- ①土・日の活動 ②夜間の活動 ③オンラインでの会議
④メールやLINEなどでの連絡 ⑤イベントの手伝いだけ ⑥その他

単位:件



その他

- ・すでにいくつかの活動に参加してる。
- ・脳梗塞なのでネット上の活動
- ・子なし夫婦同士の交流を支援する活動
- ・ウェールズ出身だが、日本に20年以上住んでいる。国際交流、地元の外国人のサポート、観光客など
- ・隙間時間で特殊な知識や技能など責任を伴わない、誰でも参加できるような活動
- ・今の活動は形骸化していて必要性もわからなくなっているものが多い。
- ・姑の介護、孫の世話で忙しい。将来的にはお手伝い出来ればと思う。
- ・家業と介護と自分自身の老齢で自分が倒れないようにするのでいっぱい。
- ・世代を越えて一緒にやれるイベント
- ・公園などの整備とイベント
- ・地域活性化のための協議会、資料作成、募金など

9 どのような手法なら参加できるか

単位:件

	土・日の活動	夜間の活動	オンラインでの 会議	メールやLINE などでの連絡	イベントの手 伝いだけ	その他
10代	2	0	1	1	1	0
20代	1	1	1	1	0	0
30代	7	4	5	6	10	1
40代	9	4	8	9	11	1
50代	11	5	10	16	14	1
60代	10	7	7	13	22	3
70代	10	1	5	8	7	4
80代	2	0	0	2	3	1
90代以上	0	0	0	0	0	0
合計	52	22	37	56	68	11

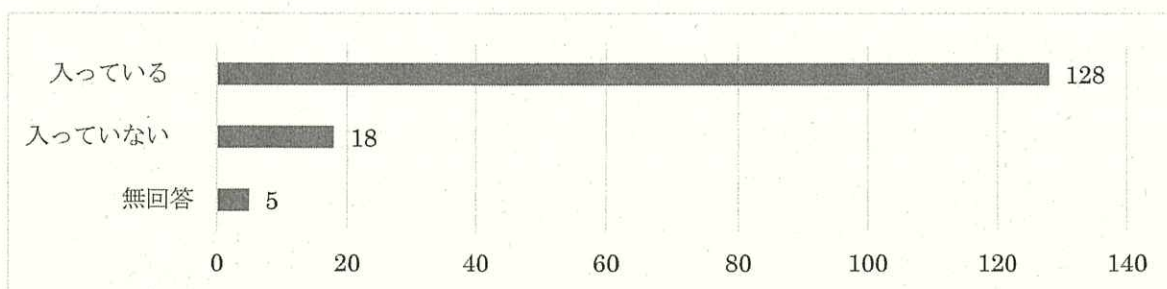
問9から見えること

「土日がいい」「イベントの手伝い」「連絡はメールやLINE」など、
問8の“イベント的な活動”や、問7の“参加したい時だけ参加する”
“無理をしない地域活動”を、また、連絡手段はメールやLINEを多くの方が
望んでいる。



10 町内会に入っていますか？

単位:件

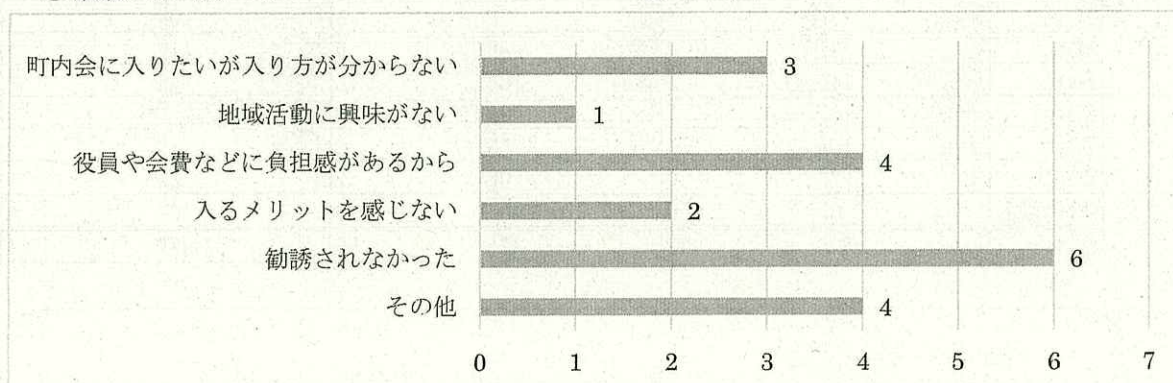


町内会にはたくさんの方が
加入してます！

10-1 入っていないと回答した方へ

- ①町内会に入りたいが入り方が分からない ②地域活動に興味がない
③役員や会費などに負担感があるから ④入るメリットを感じない
⑤勧誘されなかった ⑥その他

単位:件



その他

- ・マンションなので入っているのか分からない
- ・アパート住まいだからだと思う。
- ・フルタイムの仕事で十分な時間を割けないことも心配だ。

単位:件

10-1 町内会に入らない理由						
	町内会に入りたいが入り方が分からない	地域活動に興味がない	役員や会費などに負担感があるから	入るメリットを感じない	勧誘されなかった	その他
10代	0	0	0	0	0	0
20代	0	0	0	0	0	0
30代	2	0	2	1	5	0
40代	1	0	1	0	0	1
50代	0	0	0	0	1	2
60代	0	0	0	0	0	1
70代	0	0	1	1	0	0
80代	0	1	0	0	0	0
90代以上	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	4	2	6	4

問10 から見えること

「町内会に関する情報のアナウンスが必要」

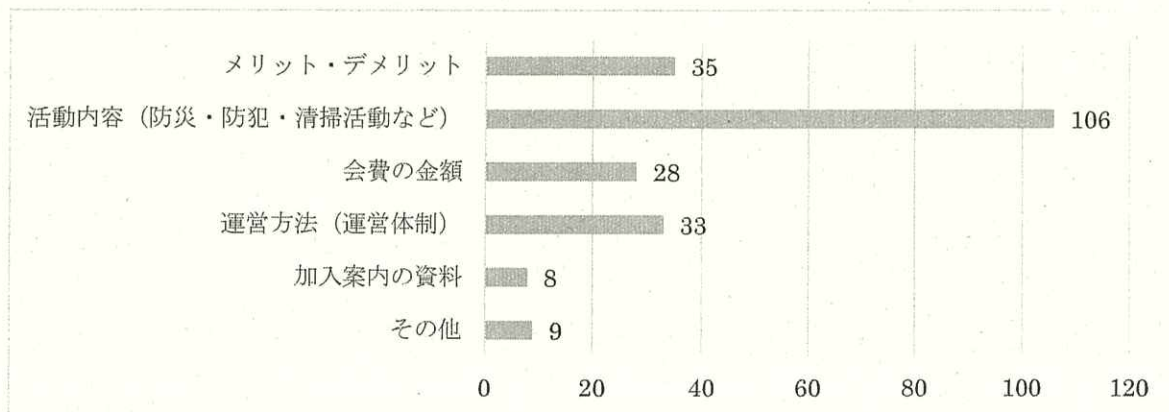
“知ってもらうにはどうしたらよいか”を考えていくことが必要！



11 町内会に加入する場合、重要視することは何ですか？（複数回答可）

- ①メリット・デメリット ②活動内容（防災・防犯・清掃活動など） ③会費の金額
④運営方法（運営体制） ⑤加入案内の資料 ⑥その他

単位:件

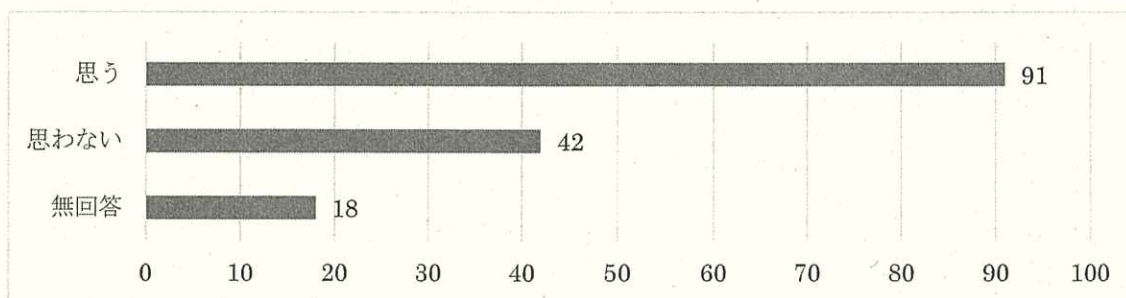


※その他

- ・どんな人がいるかによる
- ・永年当然のこととしてきた
- ・住んでいるので。
- ・加入が当然。
- ・ご近所の知り合いが増える
- ・地域の情報が得られる
- ・町内の人々の繋がり
- ・高齢男性が会長の会にはできるだけかかわらない

12 地域の「担い手不足」解消のためにボランティアも有償であるべき、との声もあります。有償なら「担い手」として地域活動をやっても良いと思いますか？

単位:件



問12 「ボランティアでも何かしらの“報酬”は必要な時代になってきている？」



13 あなたにとって暮らしやすいまちになるにはどうしたら良いと思いますか？
(自由記述)

【防災】

- ・防災意識の向上が暮らしやすい街づくり
- ・実働的な防災訓練等を積極的に取り入れてほしい。暮らしやすいまちとは住民の防災防犯意識が高く自立と自律があるコミュニティ。
- ・片瀬海岸は暮らしやすいまちだと思う。
- ・防犯、防災はとても重要で、地域の安全・安心の為に必須。自分たちの地域は自分達で守るが原則だと思う。町内会で活動がそこそこ活発で住民間のコミュニケーションがとれる温かい雰囲気がある。

【防犯】

- ・地元や地方の警察官が見守る町
- ・迷惑行為の取り締まりや防犯、防災意識を高める。人が来たいと思う魅力的な街にする、人口密度が過密ではなく適正であること
- ・外国人や観光目的で来る人が多いので、風紀が気になる。どこでも喫煙してゴミ等も置いていく。
- ・ペットのフンを花壇に入れられたり、飼い主のモラルの無さに驚く。
- ・片瀬海岸は常住者が少ないので、夜は特に不安になる。
- ・何かあった時の情報源がない。
- ・土日大騒ぎする飲食店がある。
- ・みんなで防犯意識を高めて取り組む。一部の人の負担にならないように運営者のお小遣い稼ぎになるようでも全く問題ないと思う。

【道路・交通】

- ・片瀬地区の歩道を、もっとしっかり作ってほしい。湘南海岸公園から西浜歩道橋までの通りは、電車でも車でも観光客が押し寄せるにも関わらず歩道が確立されておらず危険な上にすれ違いが出来ない。地元民としてはそこを通らずして帰宅も出来ないのでは通るが、子供達の通行が心配。
- ・交通安全、自転車取締強化
- ・交通機関の充実。片瀬山から江ノ島へバス運用、観光客来訪の道路混雑緩和のための複数道路、駅ロータリーの混雑緩和のためのルール策定あるいは二車線への変更等
- ・道路整備、橋(歩き専用)建設。海岸は橋を渡る必要があるので歩行者専用の橋を作って欲しい。通学している子供を守って欲しい。
- ・片瀬山バスの回数少ない。高齢者は無料バスがあると良い。
- ・川名から片瀬に抜ける道を作してほしい。
- ・小さな範囲を巡るコミュニティバスを多く走らせてほしい。地域内のいくつかの拠点をぐるぐ

る廻るだけで良い。利用者の行きたい場所は駅や繁華街ばかりではない。地域内の近隣の買い物や銀行、郵便局などに行きたくとも高齢になると徒歩で出かけることにハードルが高くなる。

- ・子供の通学が安全であること(距離によっては通学バスも必要(熱中症交通事故性犯罪対策)。
- ・道路にはみ出ている家庭植木の伐採(子供の通学で歩行の妨げになるとともに運転者の死角が増える))
- ・早朝のタクシー不足(朝5時に利用したくとも予約がとり難い)
- ・湘南モノレールの始発が遅い(朝5時ぐらいに大船駅へ行きたい)
- ・洲鼻通り横の二輪車駐輪場の利用が少ない。片や駐輪場未完備のマンションが多い。公共駐輪場の一部を月極め利用も可能にしてほしい。

【福祉】

- ・介護になっても認知症になっても近所の人達と助け合って暮らせる地域。
- ・必要な時に必要な助けがある町。父親に介護が必要になった際に、しおさい荘の福祉の方がとても助けてくれて、本当に感謝。

【環境】

- ・煙草の吸殻がびっしり入った箱をメインに毎日のように拾っている。それにプラス缶チューハイ、プラのコーヒーカップも同じ場所に捨てている。弁当のガラやペットボトルを公園に置きっぱなしにして、カラスが荒らしているのを拾っている
- ・資源ごみの収集は戸別にするなど、近隣に迷惑が掛からない生活が送れる環境
- ・緑、木々を減らさない対策を。もう随分なくなってしまって元に戻すことは不可能だが。

【スポーツ】

- ・高齢者が体力を維持していけるような体操
- ・ストレッチの場がたくさんほしい
- ・海岸の水道設備(シャワー、足洗い場)、スポーツしやすい広場

【公園】

- ・湘南海岸公園内に商業施設(飲食店や物販店)があると良いと思います。
- ・公園の遊具がどんどん少なくなっているので増やして(戻して)欲しい
- ・片瀬山公園を過ごしやすい場所にしてほしい。テーブル、ベンチや遊具など充実させてほしい。

【観光・経済】

- ・他県から引越してくる人や中国人観光客とか住みやすい環境を壊される。
- ・オーバーツーリズムへの対策、理不尽な来街者への毅然とした対応など
- ・観光客が多い地域なので、住民が安心して暮らしていける環境整備が必要。
- ・江ノ島に足の不自由な人のために灯台までのエレベーターが無理なら下りのエスカレーターを設置して欲しい。
- ・もっとお店が多くて安いと良い
- ・医者、スーパーなどが近くにあること
- ・江ノ電の湘南海岸公園駅と鵜沼駅近くにコンビニの出店
- ・小さな子供も連れて行けるお店を増やしてほしい
- ・東浜海水浴場に公共シャワーがない。足洗い場も1か所だけで長い行列ができる。増設してほしい。

【コミュニティ】

- ・全員で協力し合う！
- ・ひとりひとりの気配りと優しさ。
- ・まずは日頃挨拶から。自分から挨拶。
- ・気軽に声掛けできる街づくりが出来ればよい。老人世帯の多い地域なのでお手伝いできれば良い。子供たちが楽しく過ごせる街にしたい。安心、安全な街を目指したい。
- ・隣近所との関わりのある街、コミュニケーションのとれる街
- ・子どもも安心して過ごせる
- ・ご近所付き合い、一人一人の地域に対する意識、参加(交流)しやすい場所や行事
- ・地域の方とあいさつがきちんと出来て顔の見える町
- ・様々な方が子供達を見守って子育て、そして子育て世代がご近所のご高齢の方と関わり合える環境
- ・体が動くうちに高齢者や、学童に通う小学生に貢献したい
- ・少しずつでもみんなが何かを担い参加する事
- ・若い人が住み続けたいと思えるような街にすること。
- ・近所でお友だちが出来ると良いと思う。
- ・おもしろい、お互いに相手を尊重する姿勢、言動。行政に頼らず市民一人ひとりが良いまちづくりの意識を持つこと。
- ・誰でも、朝、晩の挨拶が自然に出来る環境づくり
- ・老人と子供にやさしい街。例えばベンチが多いこと。外国は多い。公園が草ぼうぼうになったりしない。手入れがよく行き届いていること。子供が裸足で遊んでも安心できる。道路がよく整備されている。子供やペットが自由に遊べる場所がたくさんあること。こういったイベントがあると理解が深くなりわかりやすいので。
- ・当たり前だが、小さな事から1人1人が環境美化、防災、防犯、地域活性の意識を持ち、自分の出来ることからやっていくのが、まず大切かと思う。片瀬地区は大きなお祭りなど守っていかなければいけない遺産もあり、少しでも地域に興味を持ってもらえるような意識改革が必要かと思う。

- ・東京都から移住してきたが、比較しても住民同士のつながりや活動が盛んに行われている印象を持つ。
- ・住民同士のコミュニケーション向上、イベント(ワイン会、グルメ会等)
- ・藤沢市産の料理教室、歴史を学びながら藤沢ウォーキング
- ・ボランティアで各自の出来る範囲で参加出来る環境を作っていくことが大事である。
- ・海外ルーツの親子(特に未就学児)の居場所作り風通しの良い、内容わかる閉鎖的でない活動。隣近所が誰だか知っている状態。互いに見守り、何かあった時は助け合える関係を普段から築けると良い。
- ・人と人とのつながりが深くもなく浅くもなく丁度良いバランスの町になれば、よいと思う。
- ・気楽に繋がれる居場所を半径500メートル事に作る隣近所が顔見知りでつながりがあること。
- ・私にとって住みやすい場所とは、お互いに干渉せず、それぞれが自己実現の出来る場所。全ての人が生きがいを持って楽しく生きられる場所。皆が笑顔でいられる場所になるといい。

【まちづくり】

- ・役員に成り手がいない→特定の人が役員を兼務→特定の人だけで運営せざるを得ない→役員の高齢化→運営体制の弱体化→そのサイクルの繰り返しなので、新しい方の発掘とリクルート活動に注力することが必要。
- ・ご近所付き合いを広げたいが、方法がわからない。会合はオンライン会議などにすれば参加しやすくなると思う。
- ・まず、統計情報を一覧にする 地区の地理範囲、主要施設、学校、公園、商業施設などなど、植生、生息昆虫、鳥類などなどをまずは洗い出してみる。
- ・地域活動に携わっている皆様には大変お世話になっている。住みやすい環境維持のため今の活動を継続お願いしたい。
- ・エリアマネジメント団体を導入する事で、第三者からの目線で新規住民も長く住んでいる人も官民も様々な主体が連携してまちを形成する。地元愛が強い片瀬の住民と新規住民の間をエリアマネジメント団体が緩やかに繋げて適切な距離感で関われるようにする。
- ・まずは地域の課題認識が出来ていることが大事だと思う。このアンケート項目でみんなが参加したくなるまちづくりの課題が見えてくるようには思えないが、きっとできるだろう。まずは、みんなが参加したくなるまちづくりを実現するための課題認識をした上で、その課題解決のための活動をお願いしたい。
- ・この内容のアンケートで何かがわかり次の活動に結び付くとは思えない。今まで通りやってもらえる若年寄を探すのではなく、方向性を共有した上で若手のやり方で進められるように高齢者が助言する立場でかかわるようにする。
- ・無理に暮らしやすくしようと、イベントなどやり過ぎない。
- ・若者が参加しやすい会議やイベント
- ・近所、町内会との交流があり、助け合いの意識が高くなるようなイベント開催などに努力すること
- ・マンション、宅地化で風景や住民、道路などが変わることが多くなった。実際にその場へ行ったり、暮らしたりする時に、その変化に対応出来るような配慮を。例)カーブミラー、道路標示、通学路、見通し、暗い場所。発見できるのは住民、対応は行政。

皆様から頂いたご意見を、片瀬・江の島まちづくり協議会だけでなく、地域で活動している自治町内会をはじめとする地域団体と共有し、地域のすべての方が楽しく安心して暮らしていけるまちとなるよう、活動をしていきたいと思います。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

2024年(令和6年)3月
片瀬・江の島まちづくり協議会

「令和5年度片瀬・江の島まちづくりタウンミーティング(地区集会)」

実施内容

【日時】 3月2日(土)午前10時30分～午後0時30分

【場所】 片瀬市民センターホール

【参加者】 33人(会場30人、オンライン3人)

内訳

人

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
0	0	2	2	8	11	6	4	33

【委員】 14人

合計 47人

【内容】 第一部 まちづくり協議会令和4、5年度2年間の活動報告

(1)まちづくり協議会全体の活動報告

(2)各部会の活動報告

第二部 (1)アンケート結果報告

(2)グループトーク

【内容詳細】

「第一部」 2年間の活動報告(スライド資料のとおり)

(1)まちづくり協議会全体の活動報告

(2)各部会の活動報告

「第二部」

(1)アンケート結果報告 : 集計結果を元に報告

【主な内容】

アンケート実施目的

「みんなが地区集会に参加してくれるにはどうしたらよいのだろう」と考え、様々な世代の方が地域の活動に対し、どのように感じたり、思ったりしているのかを把握するため。

回答数 151人(うち電子回答97人)

<アンケートからみえてくること>

① 12ページ問5

地域活動に参加したことがあるが、80%超。

特に多いのは、避難訓練や海岸清掃活動、まつりなど。

参加したことがない理由は“仕事などで忙しい”や“参加方法がよくわからない”の回答が多い。

② 15ページ問7

地域活動に関わりたい関わりたいと思うが、65%。

思わないと回答の年代別から見えてくること

問5と同様に、“仕事が忙しく時間がない”が多い。特に40代から60代の現役世代の方は「地域活動なんてやってるヒマはない!」ということか。60代以上になると「年齢や健康に不安を感じてきて、地域のための活動まではできない」が多い。

③ 17ページ問8

どのような活動なら参加できるかの年代別。

問5と同様に、“まつり”や“清掃活動”などが多い。

「仕事が忙しくてなかなか活動に参加はできない」が、「一日で終わるイベント的な活動ならできる」「参加したいときだけ参加する」「無理をしない活動がよい」という意見。

④ 18ページ問9。

どのような方法であれば参加できるか。

「活動できるのは土日」「イベントの手伝いだけ」「連絡はメールやライン」。問8と同様の意見。

⑤ 19ページの問10

町内会には多くが加入。

市内の自治会加入率が67.7%のところ、片瀬地区は91.4%と、市内で一番の加入率。入っていない方の理由は、「入り方がわからない」「勧誘されなかった」。町内会に関する情報発信の方法を考えていく必要がある。

⑥ 21ページ問12

地域活動では担い手不足が顕著であることから、有償化も必要かという質問。

60%の方が「有償化であればやってもよい」との回答。ボランティアも無償ではなく、何かしらの対価が必要な時代となってきた。

⑦ 22ページ以降問13の自由記述意見

＜質問1＞アンケート問5の「地域の活動やイベントに参加したことがあるか」の回答で、なしが20人いる。地区集会に参加していない、この20人(実際はもっと多いと思うが)の人をどうしていくか、まちづくり協議会としての見解を聞かせてほしい。

＜回答1＞参加したことがないこの20人の方が、どうしたら参加していただけるのか、そのヒントがいただきたく今回このテーマで地区集会を開催した。回答にはなっていないが、皆さんからたくさんのご意見をいただき、この20人の方が参加したくなるような活動を進めていきたい。

＜質問2＞アンケートの電子申請の人数を教えてください。

＜回答2＞数字が手元になく、後で回答。

電子申請97件、アンケート用紙54件

(2) グループトーク

5グループにわかれ実施

1・3・4はホール、2は和室、5は第2談話室

＜グループトークの意見＞

(片瀬のまち・地域のつながり)

- ・50年住んでいるが、大変住みやすいと感じている。
- ・生まれも育ちも片瀬なので、田舎がないのが寂しい。
- ・片瀬に住んでみて、色々な人と出会い、色々な人と話ができ、充実して生活ができている。
- ・夫が海の近くが好きで住み始めたが、住みやすく本日のような集会に出席できて良かった。
- ・スバナ通り: 常住者少ない。マンションがたくさんあり、昔からの人が少ない。
- ・環境としては暮らしやすいが、地域住民とのつながりが見えにくい。誰に助けを求めて良いかわかりにくい。災害が突然起こったら、この人に聞けばよい、この場所に行けばよいということが分かれば良いと思う。
- ・片瀬山だけの松本市との交流もある。藤沢市の13地区との(特に北側地域)つながりが必要(災害時の避難場所)南は地引網、北はキャンプ等を行い交流したらどうか。
- ・まず、知り合う。
- ・組織を作るよりも、やりたい人がやりたいことをやる(身体を先に動かす)
- ・高齢者とのつながり(他地区との交流)、健康体操など
- ・リモート参加より顔を見ての参加の方が、よりよい交流が出来る。

(子ども)

- ・小さい時から色々な「会」に出席させて、親子で参加しやすい催しものを多く企画して欲しい。
- ・子どもの施設(預かり)が海岸の方にはなく、観光が主になっている。
- ・片瀬では、子どもがやんちゃをしながらもとても素直に育っている。そんな子どもたちが将来まちづくりに参加できるように子どもたちとの防災イベント、お祭り参加で地元愛を育む。お祭り参加の門戸を広げるなど、子どもから親、祖父母を巻き込んでいくのが良いし、自然と関わっていくようになる。
- ・小 3 の子どもがいる。自然豊かな場所だが、公園が少なく、小さい。外で遊ばないのか公園に行っても子どもがいない。
- ・子どもと参加できるイベント。手軽に参加出来るイベント。
- ・子どもを通して知り合いが出来た。
- ・子どもの見守りが地域で出来ていること。
- ・祭りを通して、こどもの参加者を多くすることが大切

(ボランティア)

- ・町内会で出来ること。ゴミ当番など。無償は今の時代に合わない。
- ・ボランティア、昼夜どちらも同じ人がずっとやっている。
- ・おはようボランティア 地域違うが同じことをやっている。行政の縦割りを感ずる。人のやりくりが大変。
- ・片中PTAサポーター 単発で来るのは大丈夫→とりまとめ分散して
- ・育休中ならできる。
- ・自治会加入した人も、役員にはならない。(夜勤、日勤、休日バラバラ)
- 休みは家族サービス優先
- ・おはようボランティア:どんなことするか、情報を広めて。1人ではできない。JJBC申し込んでいるが来ない。
- ・当番が大変→“有償”が必要。
- ・縁側でスタンプ集める。工夫が必要
- ・息子は夜勤のある介護の仕事で地域活動は難しい
- ・自治会のスポーツ部長30人ぐらい集めて誰でもできる“ボッチャ”を実施。
→土日でも5~6人しか出てこない。
- ・ヨガ、リズム:若いママが講師。若干の謝礼→やりたい人はママ同士で広げる。
- ・自分たちが楽しくやっていたら良い。SNSの発信や謝礼も。
- ・自分のテリトリー趣味を活かす
- ・つなげる、ラインで広がる→ボランティアにどうつなげるか
- ・地域活動にどうしたら参加出来るのか? 知ることが出来るのか? 知らない人が多

い。

(SNS の活用)

- ・にここ広場：スマホ教室の先生で、若いママが来てくれる。
- ・SNS の活用

(防災)

- ・防災に関する話も多かったが防災情報の周知、そして海から山と特徴ある地形の片瀬は一連ではなく各町内会ごとの防災を考えていく必要がある。
- ・町ごとの防災の取り組みを子どもたちと一緒に出来たら良いと思う。
- ・防災のことを考えるとつながりが必要である。町内会と言われると引いてしまう人が多い。
- ・「防災」に力を入れて欲しい。片瀬海岸に住んでいるので、非常に感じている。

(まちづくり)

- ・空家をどうにかしないといけない。更地にするか？市に買い取ってもらうか？なんとかしないといけないと感じている。
- ・お祭りは良いが、歴史文化の継承がまわらない。
- ・町内会の人達のまわりなどの若い人を巻き込むことが重要。いかに集めていくか。
- ・片瀬山の地域に住んで住みやすい
- ・いい人が多い
- ・ゴミが多いと環境に問題がある。防犯、犯罪に良くない。
- ・病院が多い
- ・交通の便がいい
- ・スーパーが少ない。
- ・片瀬に転入してくる若い人が多いのになぜこのような集会の場に参加していないのか？個性的な若者が多いこともあるが、何かしらの地域の合意形成が見られないし、感じられないことも大きな要因の1つではないか。
- ・自然、文化伝統がある町。つとめと近い場所。日本人としてのアイデンティティ。「安心と笑顔がある町」に貢献できたら良い。海に近く落ちつく場所。無駄に歩く。異文化交流は日本国内でも出来る。片瀬は出会う方みんな良い人。自信と誇りが持てる街に。
- ・20年間在住 特段積極的に地域活動に参加することはなかった。自然環境がある。鎌倉にも近い。地域の課題を洗い出して、認識するコミュニケーションの場
- ・高齢者からの要望として町の中にコミュニティバスを走らせて欲しい。
- ・「まちづくり」なのか「地域活動に参加」なのか焦点が欠けている。

参加者アンケート集計結果

※回答数:29件(紙 27 件、オンライン2件)

1 回答者属性

(1)居住地区

江の島	0
片瀬	12
片瀬海岸	10
片瀬山	6
片瀬目白山	0
その他	1

(2)年代

30代	2
40代	2
50代	4
60代	12
70代	6
80代以上	3

(3)今回の地区集会を何で知ったか。

※回答数28件

回覧ちらし	14
ホームページ	1
家族・知人から	6
その他	7

その他内訳:
委員の方等の紹介 1件
地域団体会議 6件

2 地区集会について

(1)地区集会に参加した感想

とても良かった	12
良かった	10
普通	5
良くなかった	2
まったく良くなかった	0

<とても良かった・良かった・普通>

- ・ いろいろな意見を聞くことができた。(複数回答あり)
- ・ 時間が短く感じました。(複数回答あり)
- ・ 継続的に開催される事が大切。
- ・ 活動の報告がていねいで分かりやすかったです。(初めての参加でした)
- ・ グループトークの時間が短すぎたので残念。とても魅力的な方が参加してくれていたのも、もっと話が聞けたら、まち協にとってたくさんヒントが得られたと思う。
- ・ 色々な方々とお話しできましたし、問題点も気づけた。

- ・ 片瀬に住んでいてなかなか皆の意見を聞くことがないので参加してよかったです。
- ・ トークの時間がとれてよかった。(部屋だったので話が良くできた。)軸は、子供・スポーツ・公園体操・イベント運営スタッフ(ボランティア)などかと思います。(オープン)⇒主催者を固くしない(限定の組織をはなれて好きな人たちで)
- ・ 沢山の意見、経験を持った方が多く、とても楽しく思いました。
- ・ 若い方のお話を伺って刺激を受けました。片瀬を発展させたい思いも伺えて良かったです。
- ・ 片瀬地区で活動する方々の様子がみれた、また、「まちづくり」の課題意識の位置づけと今後における目標づくりによって活性化の可能性が大きい印象を受けられた。
- ・ 地域愛をもつ皆さんのたくさんの意見をお聞きできました。
- ・ ボランティアに関するもので良かった。
- ・ 人が知ることができた
- ・ 一時中断しそうになりましたが、続行できて良かったです。「片瀬山市民の家」について「まちづくり協議会」で報告してほしい。
- ・ 色々な年代の方とお話ができて知りたい情報も知ることができて良かったです。
- ・ おはようボランティアの不足など、現状がわかった。知らせたいこと、困っていることなど、片瀬地区ポータルサイトなどで発信していくとよいのではないかと思います。
- ・ 参加者が真摯に地域のことを考えていたこと。

<良くなかった・まったく良くなかった>

- ・ 議事進行がよくない。
- ・ オンライン参加したが、司会席の音声は聞こえたが、参加者に渡された方は途切れ全く聴きとれなかった。ただしグループ会議はクリアに聴こえた。前置きが長くて肝心の参加者の声を聞く時間が少な過ぎた。

(1) 地区集会のテーマ設定に対する意見

- ・ 意見交換時間(進め方も)再考してもらいたい。
- ・ ふれあい祭を中心に皆が集まれる行事の開催が数回あったら良い。
- ・ 防災について、専門家の意見を聞きたい。
- ・ 年に1回でテーマが大きすぎて足りない。
- ・ 漠然としていて意見を出すのが自分として難しく思いました。
- ・ まずまず。
- ・ テーマがある方が、お話ししやすいですね。
- ・ 自分にできるボランティアをしていきたいと思う。例えば傾聴ボランティアや年配の方のお話をきく等。
- ・ 地域住民が参加しやすい集会にして欲しい。参加方法を検討した方がよいのではと思います(周知の方法も含め)。若者が参加するようなアプローチが必要。
- ・ 今回は若い世代の方が参加して頂いて、日頃お年の方と接することが多いので、

新鮮でしたし、「みんなで話そう」に良かったと思いました。小さな積み重ねが「参加したくなる」に繋がると思います。

- ・ アンケートの結果はあまり使わなかったのも、はじめからグループトークをした方がよかった。
- ・ 予算や規模にとらわれないテーマであった事から、さまざまな考え方や求める像がみえてくると考えられた。いわゆるブレインストーミングにはぴったりのテーマであろうかと思う。
- ・ テーマを決めたグループトークにするとよいと思う。テーマもよかった。次も期待。
- ・ テーマの募集も一つの方法か。
- ・ 意見以外に事実(データ・分析)が共有された話し合いになるとよいと思いました。
- ・ 「まちづくり」片瀬のこれからを考えていく為に若い方を集めること、保育室を設置、当日参加もOK。など、若いパパ、ママも興味を持てる内容で。防災に関しても講演会、グループトークがあっても良い。
- ・ もう少し論点を絞って回数を増やした方がテーマ毎に参加したい方が増えるかもしれないし、議論も深まると思う。
- ・ 共生社会を考える：地域でできること

3 片瀬地区のまちづくりについてご意見をお聞かせください。

- ・ アンケート率 150 人/人口 19,000 人。全体的意見としては少ない気がします。
- ・ 波合市民の家の有効利用。
- ・ みなさんが納得して進むのは容易ではないと思いますが、安心安全に進めるよう願っています。
- ・ こういう集会をもっと機会を作って下さい。
- ・ 子供さんを含めた活動、イベント、企画
- ・ 地域の活動に参加して下さる方が増えると良いと思います。
- ・ 今後とも協力して行きたい。
- ・ 初めて参加させて頂き、こんなに沢山のお仕事(活動)をされている事を知り、良かったです。
- ・ 観光地で外部からの人でにぎわっているけれど、本来の「地」の人が居ないので不安を感じると共に、住むのには快適とは言えない。
- ・ 既存のワーキンググループ以外のグループを作ってもよいのではと思う。
- ・ 「まちづくり協議会」の課題認識を明確化することは大事だと思いますが、このような場でいろいろな意見や、それぞれの目標を出し合うのも、とても参考になると思いました。
- ・ 皆が参加するには“この指とまれ”で集まるプロジェクトを立ち上げて実行すると、その人が結果的に地域活動の担い手になる。町内会は下支えに徹する。お金はいらない。
- ・ まちづくり協議会として課題認識と優先順位を考えて進めてほしいです。
- ・ 防災の事について、深く話し合う中で住みやすい、参加したくなる街にまよう

に感じました。地域の回覧板は、回るのが遅く、イベントなどが終わってしまったものも時々あつたりします。LINE の藤沢市からのお知らせだとタイムリーで役に立っているのも、SNS など広めるのが良いように思います。

- ・ 活々としたまちづくりを期待したい。10 代～20 代の意見がほしいので、議論の場が提供される企画があると良い。（「地区集会」には集まらない）
- ・ また、参加できる方を誘ってきます。回覧板のデジタル化で若い人に浸透させたい。
- ・ 講師による講演会により人集めをしたらどうか。
- ・ みんなの意見を聞く場で、忙しい方々が委員なので、これから住み易い「片瀬」になるための委員会にしてほしい。皆様お疲れ様でした。
- ・ 子供と参加できる地域交流の場を作ってほしいです。
- ・ 今後も参加していきたい。
- ・ ”公式 LINE アカウント作成をお願いします。可能性は大きいかと、
- ・ まず防災！
- ・ 雑魚寝避難は止め仮設洋式トイレやトイレトラックの備蓄をお願いします。
- ・ すばな通りマンション群、災害避難指定を！”
- ・ 各団体の長が集まっているので、それぞれの方があまり無理なく、片瀬地区をより暮らしやすい町にできるとよいのではないかと思います。
- ・ 広く地域の方にご意見を聞ける環境設定づくりを考えること。車椅子で参加も、オンラインで参加も、手話や介助者を含めての参加も。

まとめ

今回の地区集会でのグループトークでの主な意見は次のとおりです。

- ・楽しく、やりたいことを自分からやる
- ・子どもと大人が一緒に参加できるイベントで来てもらう
- ・SNS等を利用した情報発信
- ・ボランティアも無償ではなく、何かしらの謝礼が必要
- ・災害など何かあったときに助け合えるつながりが必要 等々

また、事後アンケートでは、今回の地区集会に対し、

- ・意見交換の時間が短かった。
 - ・グループトークのテーマが大きすぎたのでもう少し焦点を絞ったほうが話がしやすい
 - ・若い世代が参加できるような内容を企画してほしい
- など次回に向けてのご意見もいただきました。

今回の地区集会やアンケートを通して、片瀬地区は非常に暮らしやすい、良い地域であり、人と人とのつながりがあるまち、など片瀬地区への思いを感じることができました。この思いを未来へつなぎ、地域のつながりをより強くできるよう、さらにたくさんの方にまちづくりに参加していただける片瀬地区を目指していきます。

皆様からいただいたご意見は、これからの片瀬地区をより良くするためにまちづくり協議会で地域課題としていくのはもちろん、自治・町内会をはじめとする片瀬地区内の地域団体と共有しそれぞれの活動の参考としていただきたいと考えています。

ご協力ありがとうございました。

江の島をちびくは議論を

歴史マップめぐりの様子

当日の運営を片瀬地区青少年育成協力会や藤沢市危機管理課、防災士ファシリテーターの方々ににご協力いただき、22人の子どもと保護者が片瀬地区内を歩きながら、防災について学習しました。

橋を調べるさまざまな発見があり、また架け替えられる前の橋の姿に懐かしさも感じます。橋の魅力を伝えるため、秩父宮記念体育館から江ノ島大橋までの橋の説明する予定でしたが、雨天のため西浜橋まで歩いた後、片瀬しおさいセンターで座学を行いました。

「片瀬地区みんなで話そう タウンミーティング」 ～「みんなが参加したくなるまちづくり」を目指して～」

タウンミーティング

2024年3月2日(土)タウンミーティング(地区集会)を開催しました。参加者は、会場30人、オンライン3人と、協議会委員13人の合計46人となりました。この思いを未来へつなげ、地域のつながりが強くなるよう、さらにたくさんの方々にまちづくりに参加していただける片瀬地区を目指していきます。

第一部は、「まちづくり協議会 令和4・5年度の活動報告」として、当協議会2年間の活動及び各部署等で実施した事業を報告しました。また、第二部は、10月に実施したアンケート結果の報告後、参加者によるグループワークを実施しました。

今回のタウンミーティングを通して、「片瀬地区は参考としていきたいと考えています。」

グループワークでの主な意見

- ・環境としては暮らしやすいが、地域住民とのつながりが見えにくい。
- ・防災のことを考えるとつながりが必要である。町内会と言われると引いてしまう人が多い。
- ・マンションがたくさんできて昔からの人、常住者が少なくなっている。
- ・夜勤の仕事などで地域活動は難しい。
- ・防災を考えたら地域のつながりが必要。
- ・地域活動にどうしたら参加出来るのか？知らない人が多い。
- ・SNSの発信や活用など。
- ・片瀬は出会う方みんな良い人。自信と誇りが持てる街に。
- ・子どもたちが将来まちづくりに参加できるように子どもたちとの防災イベント、お祭り参加で地元愛を育む。
- ・スマホ教室などで若いママが講師となっている。若干の謝礼は必要。
- やりたい人はママ同士で広げる。また、ボランティアにどうつなげるか。
- ・まず、自治町内会に関係のある若い人を巻き込むことが重要。
- ・子どもの施設(預かり)が海岸の方にはなく、観光が主になっていない。
- ・自然豊かな地域ではあるが、公園が少なく、公園に行っても子供がいない。
- ・子どもと参加できるイベント、手軽に参加出来るイベントが良い。
- ・親子で参加しやすい催しものを多く企画して欲しい。
- ・組織を作るよりも、やりたい人がやりたいことをやる。
- ・まず、知り合うきっかけ。
- ・自分たちが楽しくやっていければよいのでは。
- ・ゴミが多いと環境、防犯等に問題。
- ・無償は今の時代に合わない。

タウンミーティングのグループワーク、アンケートの詳細は、市ホームページおよび、片瀬市民センター窓口でご覧いただけます。

ホームページはこちら→

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kata-c/kurashi/shimin/chiki/katase/kyogikai/index.html>

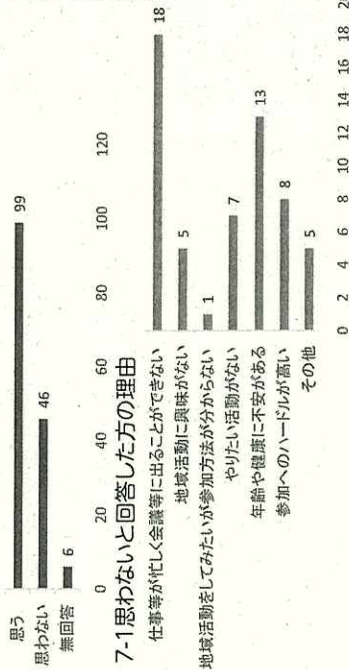
アンケート集計結果(抜粋)

「みんなが参加したくなるまちづくり」とはどういう事なのか、片瀬地区に関わりのある皆様の声を聴かせていただき、片瀬地区が「より暮らしやすいまち」となるためのヒントをいただきたく、アンケートを実施しました。

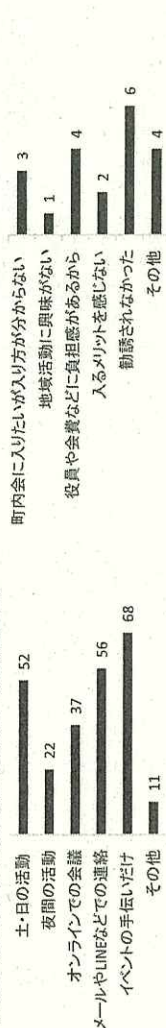
アンケート期間 2023年10月5日から11月10日まで

回答人数 151人(うち電子回答97人)

問7 地域活動に関わりたいと思いますか？



問9 地域活動に参加するとしたら、どのような方法であれば参加することができると思えますか？(複数回答可)



問9から見えること

「土日がいい」「イベントの手伝い」「連絡はメールやLINEなど、「隙間時間」を活用し、誰でも気軽に参加できる活動に対するニーズは高い。また、連絡手段はメールやLINE等デジタル化を望んでいる。

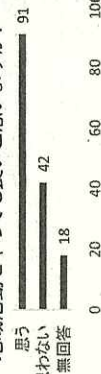
グループワークの様子



問10から見えること

「町内会に関する情報のアナウンスが必要」「知ってもらいにはどうしたらよいか」を考えていくことが必要ではないか。

問12 地域の「担い手不足」解消のためにボランティアも有償であるべき、との声もあります。有償なら「担い手」として地域活動をやっても良いと思いませんか？



問12から見えること

ボランティアでも何かしらの「報酬」は必要な時代になってきている？

片瀬・江の島まちづくり協議会(片瀬地区郷土づくり推進会議)

2023年度(令和5年度) 委員名簿

(敬称略, 順不同)

No.	役職	氏 名	選出母体等
1	会 長	畠山 義昭	片瀬地区自治町内会連絡協議会
2	副会長 人材・情報バンクセンター運営委員長	甲斐 由美子	公募
3	副会長 ボランティアセンター運営委員会会長	澁谷 晴子	片瀬地区社会福祉協議会
4	副会長 青少年健全育成部会長	三觜 由見子	片瀬地区青少年育成協力会
5	副会長 郷土文化推進部会長	甘粕 寿一	片瀬地区自主防災協議会
6		飯森 美智代	片瀬地区交通安全対策協議会
7		吉見 美江	片瀬地区子ども会連絡会
8		藤原 恭子	片瀬地区生活環境協議会
9		徳江 紀子	片瀬地区青少年支援フォーラム
10		小原 美佐江	片瀬地区民生委員児童委員協議会
11		甘粕 勇二	片瀬地区防犯協会
12		阪井 久江	片瀬市民スポーツの会
13		岩田 克美	片瀬地区老人クラブ連合会
14		渡辺 英雄	江の島振興連絡協議会
15		依藤 光雄	片瀬地区商店会
16		岡田 勝治	公募
17		山口 大助	公募
18		桐生 留美子	公募
19		福島 規恵	公募
20		近藤 信行	公募
21		保川 昌弘	公募

藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 市民及び地縁団体、市民活動団体、特定非営利活動法人、企業、社会福祉法人、医療法人、学校等地域で多様な活動を行う団体（以下「地域団体等」という。）の参画により、地域の特性を生かした郷土愛あふれるまちづくりを推進するため、市民センター又は公民館の管轄する区域（以下「地区」という。）ごとに、藤沢市郷土づくり推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

(名称)

第2条 各地区の推進会議の名称は、郷土づくり推進会議に各地区の名称を冠したものである。

2 地区ごとに推進会議の通称を付けることができるものとし、各地区の推進会議の決定に基づき市長が定める。

(所掌事務)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項を処理する。

- (1) 市民、地域団体等の地域の意見を集約することにより地域の課題を把握し、市との協働により課題解決に向けた方向性を検討すること。
- (2) 前号による検討の結果に基づき、市長に対し提案を行うとともに、必要な意見若しくは要望を提出し、又は施策の提言を行うこと。
- (3) 第1号による検討の結果に基づき、地域の特性を生かした事業を企画及び実施すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、第1条の目的を達成するため、市長又は推進会議が必要であると認める事項

(組織)

第4条 各地区の推進会議は、当該推進会議の決定に基づき市長が定める人数の委員で組織する。

(委員)

第5条 委員は、次に掲げる者に該当する者のうちから、市長が選出し、委嘱する。

- (1) 当該推進会議が設置された地区内に在住し、在勤し、若しくは在学する者又は地区内で活動する者（この市の常勤の職員又は議員である者を除く。）で、各地区の委員選考委員会が選考した者

(2) 当該推進会議が設置された地区内において活動する地域団体等から推薦された者

- 2 前項各号の者のうちから市長が選出する委員の人数は、各地区の推進会議の決定に基づき市長が別に定める。
- 3 委員は、無報酬とする。
- 4 委員が、第3条各号に規定する事項を処理するための活動に当たり、当該委員の嘱する推進会議の地区外に移動し活動するときは、旅費を支給する。
- 5 前項の旅費の額及び支給方法は、藤沢市非常勤職員の報酬等に関する条例(昭和31年藤沢市条例第36号)第1条第17号に掲げる者の取扱に準ずる。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。
- 3 委員の再任されることができる回数は、各地区の推進会議の決定に基づき市長が各地区の推進会議ごとに別に定める回数とする。

(役員等)

第7条 推進会議に議長1人のほか、副議長若干人及びその他の役員若干人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 副議長及びその他の役員の人数は、各地区の推進会議の決定に基づき市長が別に定める。
- 3 議長及び副議長の任期は、当該委員の任期内において、各地区の推進会議で定めることができる。
- 4 議長は、会務を総理し、推進会議を代表する。
- 5 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるとき、又は議長が欠けたときは、その職務を代理する。この場合において、副議長が2人以上存するときは、あらかじめ副議長のうちから議長が指名する者が職務を代理する。

(会議)

第8条 推進会議は、議長が招集する。

- 2 推進会議は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。
- 3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 議長は、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は助言、資料の提出及びその他の協力を求めることができる。

(会議の公開)

第9条 推進会議は、その会議を公開するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りでない。

- (1) 会議の内容が市長が別に定める非公開情報に係るものである場合
- (2) 会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合

(議事録の作成)

第10条 推進会議は、会議を開催したときは、次の事項を記載した議事録を作成するものとする。ただし、軽易なものについては、この限りでない。

- (1) 会議を開催した日時及び場所
- (2) 委員の現在数及び出席した委員の数
- (3) 開催目的、審議事項及び議決事項
- (4) 議事の経過の概要及びその結果

(部会)

第11条 推進会議には、必要に応じて部会を置くことができる。

2 部会は、委員及び推進会議に協力する者等で構成する。

(市長の責務)

第12条 市長は、第1条に掲げる目的を達成するため、推進会議に対し、次の各号に掲げる支援その他の必要な措置を講じるものとする。

- (1) 市長は、推進会議が第3条各号に規定する所掌事務を行うに当たり、推進会議が市民、地域団体等と十分な連携及び協働並びに調整が図られるよう積極的に努めなければならない。
- (2) 市長は、推進会議から第3条第2号の規定による提案、意見若しくは要望の提出又は施策の提言があったときは、十分な検討を行い、必要に応じて市の施策に反映するものとする。
- (3) 市長は、推進会議による第3条第3号の事業の企画及び実施に要する経費の予算化に努めるものとする。
- (4) 市長は、推進会議に対し、必要な情報の提供を行うものとする。

(事務局)

第13条 推進会議の事務を処理するため、推進会議に事務局を置く。

2 事務局は、当該推進会議が設置された地区を管轄する市民センター又は公民館とする。

3 事務局は、第3条各号に規定する推進会議の所掌事務について、委員と連携し、協働して取り組まなければならない。

(委任)

第14条 この要綱に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、各地区の推進会議の決定に基づき市長が地区ごとに要領で定める。

附 則

1 この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

2 この要綱の規定により最初に委嘱される委員は、第5条第1項の規定にかかわらず、この要綱の施行の前日において現にこの市の市長の認定を受けている地域経営会議委員のうちから市長が委嘱する。

3 前項の規定により委嘱される委員の任期は、第6条第1項本文の規定にかかわらず、委嘱の日から平成26年3月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成28年9月1日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成29年12月8日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

片瀬地区郷土づくり推進会議運営要領

(趣旨)

第1条 この要領は、藤沢市郷土づくり推進会議設置要綱（平成25年4月1日施行、以下「要綱」という。）の規定により設置された片瀬地区郷土づくり推進会議（以下「推進会議」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

(通称)

第2条 推進会議の通称は、「片瀬・江の島まちづくり協議会」とする。

(意見の集約)

第3条 推進会議は、要綱第3条第1号の意見の集約を行う場合には、次の各号に掲げるいずれかの方法により行うものとする。

(1) 地区全体集会

(2) アンケート

(3) 前2号に掲げる方法のほか、片瀬地区の実状に即し、推進会議が適当であると認める方法

(組織)

第4条 推進会議は、次に掲げる区分に応じた委員で組織する。

(1) 片瀬地区内に居住する者（この市の常勤の職員又は議員である者を除く。）で、第13条の選考委員会が選考した者

(2) 片瀬地区内において活動する別表に掲げる地域団体等から推薦された者
(委員の任期)

第5条 前条第1号により選考された者については、要綱第6条第3項の規定により再任されることのできる回数を1回に限る。

(役員等)

第6条 推進会議に会長1人のほか、副会長若干人（以下「役員等」という。）を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ副会長のうちから会長が指名する者がその職務を代理する。

(会議)

第7条 推進会議は、次の各号に掲げる会議を開催する。

- (1) 会長が委員を招集して全体会を開催し、推進会議の全体活動に関する会議を行う。
- (2) 会長が役員等を招集して役員会を開催し、推進会議の運営に関する会議を行う。
- (3) 部会長が部会構成員を招集して部会を開催し、部会の活動に関する会議を行う。
- (4) 会長は、会議の運営上必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は助言、資料の提出及びその他の協力を求めることができる。

(全体会の公開)

第8条 全体会の公開及び傍聴等に関して必要な事項は、推進会議の決定に基づき市長が別に定める。

(全体会の議事録の作成)

第9条 全体会の議事録は、推進会議の決定に基づき市長が別に定める期間公表するものとする。

(部会等)

第10条 推進会議に次の部会を置き、委員及び推進会議に協力する者等のうちから推進会議が選任する者（以下「部会構成員」という。）で構成する。

- (1) 人材・情報バンクセンター運営委員会
- (2) ボランティアセンター運営委員会
- (3) 青少年健全育成部会
- (4) 公民館活用部会
- (5) 郷土文化推進部会

2 部会に部会長1人のほか、副部会長を若干人置く。

3 部会長は部会構成員のうち、委員の互選によりこれを定め、副部会長は部会長が指名する。

4 部会長は、部会会務を総理し、部会を代表する。

5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるとき、又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(協力員)

第11条 協力員は、まちづくり事業の検討及び実施にあたり協力して活動する者で、必要に応じて各部会におくものとする。任命については、その事業及び活動趣旨に理解・賛同する者を部会に属する委員の総意により選出し、役員会及び全体会の承認を得たうえで決定するものとする。協力員の任期は、現行委員任期末までとし、再任は妨げないものとする。

(事務局)

第12条 推進会議の事務局は、片瀬市民センターとする。

(委員選考委員会)

第13条 市長は、現に委員である者の任期が満了する3月前までに、会長並びに委員及び委員以外の者のうちから推進会議が選任する者によって構成する委員選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置しなければならない。

2 前項に定めるもののほか、選考委員会、委員の募集及び選考に関して必要な事項は、推進会議の決定に基づき市長が別に定める。

(委任)

第14条 この要領に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、推進会議の決定に基づき市長が別に定める。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

番号	地 域 団 体 等 の 名 称
1	片瀬公民館評議員会
2	片瀬公民館サークル連絡会
3	片瀬市民スポーツの会
4	片瀬地区交通安全対策協議会
5	片瀬地区子ども会連絡会
6	片瀬地区社会福祉協議会
7	片瀬地区自主防災協議会
8	片瀬地区自治町内会連絡協議会
9	片瀬地区生活環境協議会
10	片瀬地区青少年育成協力会
11	片瀬地区青少年支援フォーラム
12	片瀬地区民生委員児童委員協議会
13	片瀬地区防犯協会
14	片瀬地区老人クラブ連合会
15	江の島振興連絡協議会
16	片瀬地区商店会



歴史の薫りと潮の香りがただよう
ふれあいのまち 片瀬・江の島